

獅

平成二年
1月号

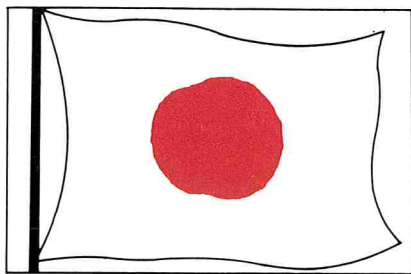
友

1990
January

第三十六卷第一号
（通卷四一九号）



組織拡充強化の 強力な施策推進を



表紙写真の解説

写真家 宝蔵寺 忠

—— 自然美散策（秀峰富士） ——

—— 山梨県富士吉田市富士五合目 ——

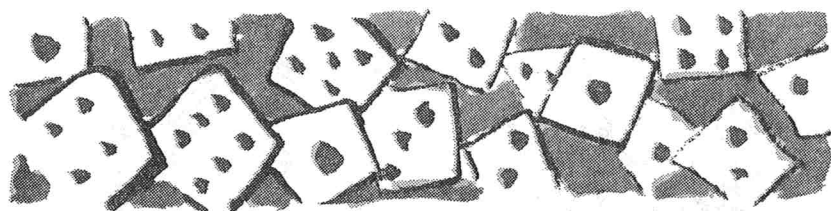
富士山は、標高三七七六メートルで、いうまでもなくわが国の最高峰であるとともに、世界に名だたる、日本を代表する名山である。秀麗な山容をもつ富士山は、万葉のむかしから、歌や俳句や小説にと歌いつがれ、語りつがれて讚美され日本人の心のふるさととして仰がれ親しまれてきた名山である。いろいろの伝説にまつわるが、むかし富士山自体を尊厳視した霊山信仰が富士登山と結びついてさかんになったのは平安時代中期以降で、末期には富士信仰が仏教と結びついて、登山する者が一層ふえた。江戸時代に入ってからは、この富士信仰による登山が「富士講」として組織化され、以来ますます富士登山はさかんになった。江戸中期になると吉田口からの登山者は年間八千人を数えたといわれる。従来は「富士講」による信仰登山であったが、この頃からは、こころは信仰と無関係となり、富士登山も大衆化していった。信仰を中心とした富士登山も、明治・大正・昭和とへた今日では、観光的な登山が主流をしめるようになり、とくに昭和三十九年に有料道路「スバルライン」が河口湖から五合目まで開通後はまったくのレジャー登山となつてしまい、江戸に八百八講を誇つた富士講もほとんどその影を消し、白衣の道者の姿を目にすることもなくなった。

“六根清浄、お山は晴天……”

郷友目次(1月号)



巻頭言.....	(2)
年頭の辞.....	堀江 正夫(3)
社会党の防衛政策を斬る.....	郷田 豊(28)
安全保障を考える(一).....	衛藤 藩吉(33)
「北方領土」に関する記述について.....	森本 真章(37)
「郷友オピニオン」(寺崎隆治・岸田清・岩政寛隆).....	(43)
東ヨーロッパに相踵ぐ動乱の事象.....	斎藤 忠(48)
軍事常識——信頼醸成措置.....	五十嵐 晃(52)
随想・失われた商業道徳を嘆く(一).....	大塚 道廣(54)
戦いの九原則(その7).....	武岡 淳彦(58)
祖国日本に愛と誇りを持つ子を育てる(その6).....	多田三重子(62)
現代に見る間接侵略・革命(十九).....	狩野 信行(66)
韓国訪問の随想.....	田藤 勉(70)
郷土の城(29).....	佐々木信四郎(75)
郷友基金醸金者ご芳名(新・7回目・本部だより他).....	(79)
新隊員の日(124)(え・柏木康武).....	枚野 良祥(81)
地方だより(熊本・石川).....	(85)
俳壇・歌壇・柳壇.....	(89)
編集後記.....	(96)



新年に当り

会長 堀江 正夫

申すも畏きことであるが、歴代の天皇が賢所や神宮に御参拝される場合、御祈念になるのは、ただ国の平安繁栄と国民の幸福だけであると、洩れ承わったことがある。

この際私ごとで恐縮であるが、私も機会を求めて近在のお宮にお詣りをし、特に毎年正月三ヶ日の間に、明治神宮と靖国神社と、それに近在の五社にお詣りするのを恒例としているが、私なりに陛下の御心を心として、日本と世界の平和と安全と繁栄をお祈りし続けてきた。勿論平成二年のこの新年も、そのようにするつもりである。

それにつけても新年に当り泌々と思うことがある。その第一は、有難いことに、各県各地域の多くの郷友同志が先頭に立って、皇居奉仕や護国神社の清掃参拝をしておられる、これを是非共更に全国各県各地域の同志に拡大すると共に、中広いこの種の運動を積極的に展開したいものだという思いである。

その第二は、経済大国ともなり国民の価値感が極めて多様化した中で、われわれにとつて掛け替えないこの祖国日本は、どの方向に進むべきか。どの方向に進むようにわれわれは微力を尽すべきかという問題である。

昨年は、リクルートに端を発し、消費税や農政問題等が相乗的に作用し、国民的信頼を得て戦后一貫して国政を担当し、今日の日本を国民と共に築き上げてきた、自民党に対する国民の不信感が一挙に大きく吹き出し、あの参議院選挙での、社会党圧勝・自民党惨敗の結果となり、政局の不安定混迷を招来した。

今年は今早々に衆議院選挙が行われようとしている。そしてこの選挙が、流動する世界情勢の中で、これからの日本の将来を決する重大な選挙であることはいうまでもない。

少なくともわれわれ郷友同志は、一時的感情に捉われず、個人的利害の打算に走らず、各党の世界観、国家観を正しく認識し、その行動その一票に絶対誤りなきを期したいものである。

年頭の辞

会長 堀江正夫

新年おめでとございます。

平成二年の新春を迎えるに当り、まず会員の皆様と一緒に、皇室の弥栄と、日本及び世界の平和と安全と繁栄を祈念すると共に、英霊に対し追悼の誠を捧げ、併せて会員及びご家族の皆様の、この一年間のご健康ご多幸をお祈り致します。

同時に、昨年三月に会長に就任して以来、会員の皆様から賜わっているご芳情に対し、謹んでご厚礼申しあげます。

扱て、今もなお国民ひとしく敬仰してやまない、昭和天皇の喪の明ける本年は、本格的な平成新時代の幕明けの年であります。

この時に当り眼を外に向けて見ますと、東欧ではゴルバチョフのペレストロイカ政策が発端となり、一党独裁、中

央集権の共産政治体制から脱皮し、自由を求める国民大衆の声が、大きなうねりとなって揺れ動き、この状態を重視する人は、共産主義の崩壊敗北といい、新デタント時代の到来といい、世界の新体制への模索の時代といっています。

このような中で、昨年十二月初頭米ソ首脳の歴史的なマルタ会談が行われ、冷戦の終結や対ソ経済支援の本格化や軍縮促進、更にソ連の東欧不介入等が確認されました。

正に画期的な歴史的転換であり、これにより新時代への扉が開かれることになりましたが、その前途は決してバラ色一色とはいえません。どのような新秩序をどのようにして作るかは総てこれからの問題であり、その上東欧情勢やソ連自身が今後どのように推移するのか、ソ連がこれにどう対応するのか、これらには極めて大きな危険が秘められ

ているのであります。

更にソ連が、依然として共産主義の基本を変えようとしていないことと、彼等が言明した兵力削減をしたとしても、なお東西の戦力には大きな隔差があり、仮に更なる大中の軍縮をする場合も、その完了には十年二十年の長期間を必要とし、この間窮鼠猫を噛む軍事行動に出る可能性もありうることを、十分に留意しておく必要があります。

一方アジアでは、天安門事件に見る中国や、極端な教条主義の北鮮がわが隣国にあり、この両国が今後欧州を中心とする世界の潮流の中でどの方向に向うのか、大いに注目を要しますが、少なくとも現情は頑な共産主義体制を堅持している冷厳な現実を無視することはできません。

ここで眼を国内に転じますと、政局不安定の中で、本年が二十一世紀に向っての日本の命運を決する正念場の年となることであります。この際はつきりしておかなければならないのは、世界が大きく自由民主の方向に動いている時に、国際国家としてしか生きる道のない、積極的に国際的に貢献しなければならぬ日本が、独りこれに逆行する道を選ぶ愚を、犯してはならないということです。

われわれにとっては正に本年が、このような世界的転換期にあることを認識し、その上に立って、連盟の理念・目標をどのように具現するかということが、本年のわれわれ

に課せられた最大の課題であると信じます。

そのためには、まず自らの脚下を見つめ、その実態の上に立って、時代の要求に即応する運動を、新たな意欲をかき立てて、一つづつ地道に行う以外にはないと思います。

会勢の実態からは、一部支部の再建を含む全支部の会勢拡大と、本部及び支部の財政基盤の拡張整備、そしてその上に立った、創意を生かした、独自あるいは関係団体と協力した各種運動の展開であります。

国政の実態からは、政局の安定化や国の安全保障基盤の確立に対する協力等々、これらは本年も更に活潑に全国的に実行し、立派な成果を挙げたいものであります。

この一年がわが連盟にとっても輝やかしい年とするよう、私も皆様の先頭に立って微力を尽す所存であります。皆様のご健勝、ご活躍、ご協力を切にお祈りして年頭の辞と致します。



年 新 賀 謹

<p>株式 会社</p> <p>大 林 組</p>	<p>大 林 道 路</p> <p>株式 会社</p>	<p>三 菱 建 設</p> <p>株式 会社</p>	<p>鹿 島 建 設</p> <p>株式 会社</p>	<p>新 日 本 製 鉄</p> <p>株式 会社</p>
<p>株式 会社</p> <p>竹 中 工 務 店</p>	<p>ホ テ ル 札 幌 会 館</p>	<p>株式 会社</p> <p>資 生 堂</p>	<p>株式 会社</p> <p>東 芝</p>	<p>東 邦 生 命 保 險</p> <p>相互 会社</p>
<p>三 菱 電 機</p> <p>株式 会社</p>	<p>東 京 電 力</p> <p>株式 会社</p>	<p>京 浜 急 行 電 鉄</p> <p>株式 会社</p>	<p>株式 会社</p> <p>富 士 銀 行</p>	<p>東 芝 イー エム アイ</p> <p>株式 会社</p>

(順不同)

明けましておめでとう

株式会社
横浜銀行

日本電気
株式会社

日本燃料
株式会社

大成建設
株式会社

伊藤忠商事
株式会社

朝日生命保険
相互会社

富士重工業
株式会社

株式会社
三井銀行

三菱地所
株式会社

三井生命保険
相互会社

富士ボトリング
株式会社

社団法人
日本経済団体連合会

三菱重工業
株式会社

大正海上
火災保険
株式会社

株式会社
松坂屋

年 新 賀 謹

株式
住友銀行

石川島播磨
重工業
株式
会社

トヨタ自動車
株式
会社

ダイキン工業
株式
会社

関西電力
株式
会社

財団
防衛弘済会

旭化成工業
株式
会社

近畿日本鉄道
株式
会社

三菱自動車工業
株式
会社

ダイセル化学工業
株式
会社

住友金属工業
株式
会社

N
K
K
株式
会社

朝日麦酒
株式
会社

久保田鉄工
株式
会社

協栄生命保険
株式
会社

明けましておめでとう

住友生命保険

相互
会社

清水建設

株式
会社

株式
熊谷組

大阪瓦斯
株式
会社

フジタ工業
株式
会社

共同印刷

株式
会社

三井不動産

株式
会社

川崎重工業
株式
会社

三菱プレシジョン
株式
会社

株式
第一勧業銀行



帝国警備保障

株式
会社

日立電線
株式
会社

日本産業警備保障
株式
会社

武蔵建設
株式
会社

謹 賀 新 年

衆議院議員
元國務大臣

三ツ林弥太郎

參議院議員

熊谷太三郎

東邦生命保險相互會社
代表取締役社長

太田清藏

參議院議員

田村秀昭

社団法人日本郷友連盟
名譽顧問

有末精三

明けましておめでとう

日本燃料株式会社
代表取締役社長

木山正義

会社
〒160 新宿区新宿一―一〇―三
電話〇三―三五四―〇七〇一(代)
自宅
〒157 世田谷区成城二―三六―二

日本世界戦略フォーラム

会長 杉田 一次

理事長 法眼 晋作

専務理事 三好 修

財団法人 防衛弘済会

会長 島田 豊

理事長 小谷 久

常務理事 柴田 幸彌

理事 矢野 龍男

理事 秋山 秀義

理事 黒田 崧

理事 山下 徹

理事 種具 正二郎

理事 高崎 郁男

理事 西山 幹男

監事 新井 道彦

監事 梅岡 弘

日本郷友連盟相談役

寺崎隆治

〒182 東京都調布市若葉町一―三
電話 〇三―(三〇七)六―一―

出光興産(株)販売店

国光商事株式会社

ヒカリ石油株式会社

ミツワ石油株式会社

代表取締役会長

神田 八雄
野中俊雄

〒164 中野区東中野一―七―一
電話 〇三―(三七一)六―六―一

連盟顧問

三木正一

〒232 横浜市南区南吉田町一―三
電話 〇四五―(二六一)七―三八七

(社)日本郷友連盟顧問

石隈辰彦

〒248 鎌倉市佐助二―一―〇―四

年 新 賀 謹

共産圏動向研究所所長
全日本郷友連盟顧問
㈱扇兄弟社代表取締役

扇 貞雄

☎ 657 神戸市灘区水道筋三一一〇
☎ (☎)八〇二二三三二
FAX (☎)八〇二二三九八二
自宅 神戸市灘区畑原通五十四一〇
☎ (☎)八〇二二三三三二

池上 巖

〒273 101
千葉県鎌ヶ谷市南初富一八二二五
電話 〇四七四(四五) 六八一二

佐 薙 毅

〒186 国立市東一―一二―二

全国近歩一会

会長 甲谷悦雄

井本熊男

〒155 世田谷区代沢一―六―六
電話 〇三(四一四) 二二四〇

株式会社中部ビケン

代表取締役

藤 根 伊三郎

〒500 岐阜市竜田町九一―一五
電話 (☎)六(七四)五九〇〇番

(社)日本郷友連盟

顧問 越智誠一

東京都小平市上水南町一六六

興石 睦

弁護士

事務所
服部興石法律事務所
電話 二七三一八九六一

郷友連盟参与
県スパイ防止法顧問

栗原光孝

日本工機株式会社
専務取締役

近藤 靖

偕行短歌・郷友歌壇選者
新塾・銀河同人
アララギ会員

森 武次

〒214 川崎市多摩区西生田三三三

明けましておめでとう

(社)日本郷友連盟理事
山口県郷友会青少年部長

國光俊男

岩国市議会議員
岩国市車町二一四一五

愛知県郷友連盟
日本郷友連盟愛知県支部

会長 近藤伝六

〒491 一宮市浅野山王四番地
電話〇五八六一七七一三二六一

財団法人
平和・安全保障研究所

理事 塚本勝一
事務局長

サウザン・パンフィク・エン
タープライズ会長
水産エンジニアリング社長
航空宇宙科学博物館協会会長
日本郷友連盟参与

浦茂

〒107 東京都港区南青山二九六三
TEL 四〇一五八六二

陸士第二十九期

磯矢伍郎

〒251 藤沢市片瀬海岸三三三

野島一良
(日本伝統俳句協会会員)

〒186 東京都国立市東三十三六

大西一
(郷友連盟相談役)

〒236 横浜市金沢区平湯町三一番
電話〇四五七〇二六四三二

岸本重一

〒177 練馬区関町北三丁目三二二
電話(九二〇)二二三三二

太野垣博夫

228 相模原市新磯野二丁目三三六
電話〇四六二(五四)〇一五三

上田泰弘

〒228 座間市緑ヶ丘三〇一〇一

國分守

〒202 東京都保谷市富士町
三三三一二五
電話〇四二四(六七)八四五六

碓井準三

〒259-01 神奈川県中郡大磯町
石神台三二一
電話 〇四三(七二)〇一七一

日本郷友連盟顧問
井川静男

〒135 東京都江東区東陽
二一三一六一四〇五
電話(六四七)七七〇二

竹澤力夫

〒331 大宮市日進町二一〇〇八
電話 〇四八六六三二六八四九

中島親孝

〒153 目黒区目黒
三一五一一五

舞敏方

〒168 東京都杉並区永福
二一四八一七

今岡豊

〒227 横浜市緑区つじが丘
二四一三三

三国直福

〒272 市川市大町七六

年 新 賀 謹

橋 本 秀 信
(郷友連盟参与)

〒155 東京都世田谷区代沢
四丁目一四一八
電話 〇三(四二二)二三六二

松 村 弘
(郷友連盟参与)

〒280 千葉市東本町七一二

中 川 勇

〒228 相模原市上鶴間四二四三三六
電話(四七)四二一六八二九番

小 田 原 健 児

(社)日本郷友連盟相談役

田 中 耕 二

〒194 町田市玉川学園二一五一一六

相談役

星 野 清 三 郎

川崎市麻生区百合丘三三三

日本郷友連盟顧問
同神奈川県支部相談役

生 亀 元

〒250 小田原市小台九四一四
電話 〇四六五(三七)一八八四

郷友連盟相談役

上 妻 正 康

〒164 東京都中野区南高田四一四
電話(二八一)五六九五

相談役

倉 岡 愛 和

〒279 浦安市美浜一六七〇八
電話 〇四七三(五五)七三〇八

社団法人日本郷友連盟
北海道東地区連絡事務所

組織担当 藤 代 三 郎

〒080 帯広市西一七条北二丁目
三〇一八八一E

桑 原 行 男

(郷友連盟理事)
(神奈川県支部理事長)
〒232 横浜市中区中里一七一二
電話(四七)三三〇三八三

東京郷友会町田市支部
会長 持 麿 正 二

坂 本 宮 信 仁

極東問題研究所

〒297-01 千葉県長生郡長南町
坂本四五九
電話 〇四七五(四六)〇六三二

技術士(船舶)

牧 野 茂
(連盟参与)

事務所(住所)
〒152 目黒区南一八一八一六
電話 〇三(717)一四〇〇

明けましておめでとう

平成二年元旦

日本市民防衛協会

〒103 中央区日本橋3-5-12 吉野ビル7F
電話 03-271-0262~3

会 長 三原 朝雄(前衆議院議員)

理事長 谷藤 正三(元北海道開発庁事務次官)

常務理事 植村 厚一(植村技研工業(株)会長)

理 事 富樫 凱一(元本四連絡橋公団総裁)

” 佐藤 和男(青山学院大学教授)

” 都倉 栄二(世界の動き社理事長)

” 丸山 昂(元防衛庁事務次官)

” 能村龍太郎(太陽工業(株)会長)

” 西脇 安(ウイーン大学名誉教授)

事務局長 福富 繁(元陸将)

監 事 長崎 正造(放射線影響協会会長)

日本郷友連盟 (北海道支部副会長)

日本銃剣道連盟 (兼 帯広 会長)

日本馬術連盟 (” ”)

宮坂建設工業株式会社

取締役社長

宮 坂 文 一

取締役副社長

宮 坂 寿 文

本 社 帯広市西四条南八丁目十二

電話(〇一五五)二三一九一五一

支 社 札幌市中央区南六条西十七丁目

電話(〇一一)五六一一二〇三五

出張所 旭川市・釧路市・苫小牧市・東京都

社団法人
全日本銃剣道連盟

会長 久保田 茂

〒102 東京都千代田区

北の丸公園二番三号
日本武道館内

和歌山偕行会

会長 根来 卓 美

幹事 畑山 義 明

和歌山市徒町二五

年 新 賀 謹

日本郷友連盟本部副会長
日本民主同志会会長
宗教学人平安教団会長

松本明重

雲濤居 京都市山科区日の岡堤谷町七五一一
電話 〇七五(五九二)〇四〇四

〒102 東京都千代田区九段南四一三一七 偕行社気付

白菊遺族会
會長 木村可縫
外役員一同

全国自衛隊父兄会

東京都支部連合会

副會長	上妻正康	副會長	小黒哲夫	副會長	岩崎弥之助	副會長	吉田光男	副會長	菅原章	副會長	比留間眺	副會長	神藤雄	副會長	富樫行雄	副會長	峯岸治	副會長	奈良信	副會長	菊田茂	副會長	本橋良	副會長	小池淳	副會長	鹿島晃	副會長	杉山文	副會長	星野基	副會長	星野基
-----	------	-----	------	-----	-------	-----	------	-----	-----	-----	------	-----	-----	-----	------	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----

財団法人

千鳥ヶ淵戦没者

墓苑奉仕会

會長	瀨島龍三	副會長	伊藤達二	同	原文兵衛	同	八木哲夫	理事長	和田盛哉	常務理事	宮崎正直	同	野口美喜雄
----	------	-----	------	---	------	---	------	-----	------	------	------	---	-------

水交會

會長	石限辰彦	副會長	鮫島博一	副會長	岡吉彦	副會長	時光俊	副會長	清水忠	副會長	清忠	副會長	井上頼昌
----	------	-----	------	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	----	-----	------

明けましておめでとう

記念艦三笠

財団法人

三笠保存会

会長 金森 政雄

副会長 板谷 隆一

同 原 徹

同 岡本 良平

理事長 常広 栄一

事務局長 坂本 陸

横須賀市稲岡町無番地
電話〇四六八(二三)五四〇八
五二二五

社団法人

全国自衛隊父兄会

名誉会長

会長

副会長

同

同

同 事務局長

坂田 道太

山下 元利

堀江 正夫

小田村 四郎

穴倉 正宗

上妻 康

陸軍経理学校同窓会

若松会

代表世話人

相談役

同

同

同

同

同

同

同

伊藤 光信

熊谷 卓次

飛田 知宣

平山 俊一

前川 昌三

森尾 正

萩小田 隆男

明知 芳隆

小島 久貢

片桐 利久

小林 精三

河波 紀彦

安岡 義朗

吉川 宏

財団法人

借行社

会長 竹田恒徳 (42期)

副会長 白井正辰 (43期)

同 瀬島龍三 (44期)

同 田中兼五郎 (45期)

同 原多喜三 (50期)

理事長 盛野公郎 (60期)

事務局長

同

隊友会

社団法人

会長 江崎 真澄

副会長 中村 龍平

同 三好 秀男

同 竹田 五郎

同 吉野 實

同 鈴木 敏通

同 吉田 学

事務局長 成重 光國

船越郷友会

会長 佐久間 博

副会長 鈴木 正之

同 長谷川 キミ

同 婦人部長 役員会員一同

年 新 賀 謹

青森県支部

支部長 葛西彦逸
 副支部長 下山繁十郎
 理事 長谷川勝雄
 副支部長 齊藤幸男
 同 中野鉄男
 同 今武美
 婦人部長 下山みち江

釧路郷友会

会長 神政治
 副会長 横地重幸
 同 垂水勘兵衛
 同 川井克雄
 同 柳谷峰穂
 事務局長

宮城県郷友会

会長 小松冬彦
 外役員一同
 千980 仙台市青葉区本町
 三丁目七十四
 宮城県社会福祉会館内

山形県支部

会長代行

伊藤直介

会員一同

社団法人日本郷友連盟 福島県支部

会長 五十嵐善一郎

千960 福島市春日町十三番八号
 電話(0245)2321183210

茨城県支部

会長 軍司直次郎
 副会長 根本権利
 兼理事 横山豊助
 " 大貫周美
 " 島田則雄
 " 丹下一男
 兼理事 小林立
 兼副理事長 柏林
 婦人部長 梅原三喜男
 常務理事 沢田正男
 " 小貫定吉
 " 佐伯一彦
 " 熊坂光明
 兼会計

東京都支部 板橋区郷友会

会長 八重畑達男
 他会員一同

日本郷友連盟 千葉県支部

支部長 野崎弘夫
 副支部長 森川玄六
 同 大木勝
 同 高橋章
 同 菅谷禧一
 同 岡田正秋
 同 渡邊源一
 理事 市原正常
 監事 石渡文衛

東京都支部 東久留米市郷友会

顧問 小林忠雄
 会長 岡田正義
 副会長 佐藤重由

明けましておめでとう

東京都支部

会長 原文兵衛
 副会長 加藤美秀
 理事兼 安達泰矩
 副会長 中島一明
 同 須貝清治
 同 持魔正二
 同 安達芳子
 婦人部長 横山三郎
 事務局長 外役員一同

神奈川県支部 横浜中村郷友会

会長 鈴木忠一
 副会長 鈴木清
 同 鈴木勇助
 同 石川貞雄
 同 近藤静子
 婦人部長

東京都郷友会

柏誠四郎
 水越吉次
 伊沢英二
 大和田雅博
 堀口雅男
 内田安雄
 豊田春平
 杉本栄三
 広沢市郎
 上田賢寿
 小平沢澄子
 小林知高
 平井森二
 秋山喜治

財団法人 神奈川県遺族会

会長 高橋常明
 外役員一同
 〒233 横浜市港南区大久保一丁目八の十
 電話 (四五八四)二四二四三

東京都支部 荒川区郷友会

最高顧問 天野公義
 会長 安島徳
 副会長 野尻博
 同 柏倉定治郎
 同 高橋勘三郎
 同 計高野英夫
 同 計高野英夫
 同 外役員一同

日本郷友連盟 山梨県支部

支部長 原生男
 副支部長 山岡佳年
 同 岡佳年
 同 五味三郎
 同 中西知恵能
 同 塩田正三
 同 安河内瑞仙
 同 監事 安河内瑞仙
 同 婦人部長 塩田正三

神奈川県支部

会長 天野良英
 副会長 鈴木忠一
 同 平沢末吉
 同 二椏木久二
 同 種田百一
 同 中島国太郎
 同 桑原行男
 同 理事 桑原行男
 同 副理事 三品幸三郎
 同 泉政雄
 同 手塚定吉
 同 同婦人部長 佐生ヨシイ
 同 他役員一同

三和記章工芸社

〒111 東京都台東区元浅草二丁目八十三番
 電話(代表) (八四五)五五〇番
 FAX (八四五)〇三三三番

年 新 賀 謹

横須賀郷友連合会 佐野郷友会

會長 龜田章典
副會長 安藤卓三
同 杉本武治
同 渡辺喜久夫
会 計 鈴木秀壽
庶務 鈴木秀壽
監査 平野辰夫
理事 太田芳博
同 堀川由衛
同 近藤新司
同 村松重治

愛知県支部

名譽會長 桑原幹根
會長 近藤伝六
副會長 穂積藤雄
同 岸田宗喜
同 小島重信
同 杉本寿美枝
婦人部長 飯野清光
理事 飯野清光
副理事 千崎三郎
兼事務局長 丹羽徳藏
副理事長 小島文子
婦人部長 天野昭子
代部長 野子

三重県支部

會長 倉田文治
副會長 市川治平
同 倉田敏郎
同 岡田義男
同理事 中井義博
副理事長 田村博
理事 森立人
兼事務局長 伊藤英男
同 兼計 三浦と志子
同 兼婦人部長

富山県支部

會長 大野俊雄
副會長 松本義雄
同 若林直一
同 中川茂則
同 岡島松次郎
同 同兼理事長 瀨川時造
副理事長 東狐久夫
同 高木信治
同 事務局長 小櫻正二
同 青少年担当 常任理事 平田吉男
婦人部長 清水ミサヲ
他會員一同

石川県支部

名譽會長 徳田與吉郎
會長 杉野勝次
理事 佐々木外幸
副理事長 兼青少年部長 今村勉
婦人部長 河村千枝子
外會員一同

日本郷友連盟 福井県支部

支部長 内田清之

上芳養郷友会

和歌山県田辺市上芳養
電話〇七三九(三七)〇〇五三
千六四六一〇一

明けましておめでとう

大山町郷友会

会長 瀬川時造
 副会長 浅野静
 同 高木栄雄
 同 堀井豊一
 同 高倉貫道
 同 真田弘
 兼理事 橋森一郎
 小見地区長 芳子
 婦人部長 石動
 婦人副部長 三原フミエ
 婦人副部長 深山富美枝

和歌山県支部

会長 佐伯隆平
 副会長 木下兵三郎
 副会長兼理事 田村和雄
 副理事長 谷崎栄太郎
 常任理事兼事務局長 前田武史
 常任理事兼青少年部長 楠晴尊
 理事兼婦人部長 中野都世子
 監事 森本正二
 事務局 和歌山市園部一六七七―五
 電話〇七三四五三―五五二五

奈良県至誠会

社団法人
 会長 杉田一治
 副会長 吉村信次
 副会長 中山孫八郎
 兼理事 辻善一郎
 同 澤井徳太郎
 同 福西房一郎

京都府支部

会長 植木光教
 副会長 木俣秋水
 同 国枝克一郎
 同 小山常芳
 副会長兼理事 松本明重

大阪府支部

会長 中山太郎
 副会長 芝田武治
 兼理事 梶谷健郎
 副会長 時岡正光
 同 脇田之夫
 事務局長

事務局 京都市中京区河原町通竹屋町上ル
 井上ビル二階
 電話 〇七五(二二)〇二七八番

年 新 賀 謹

兵庫縣支部

名譽顧問 蟹江宗次郎
顧問 五百藏 新
會長 石丸稔
副會長 田麿 勉
同 岡村忠雄
同 國吉章二
同 細井忠夫
理事局長兼 守屋末治
常任理事兼 泉美呀
婦人部長 前田悟
同 事務局次長

岡山縣鄉友軍恩連盟

會長 江見祐道
外會員一同

700岡山市石関町二一
岡山縣綜合福祉會館内

広島縣支部

會長 増岡博之
副會長 和田広
理事長 片山繁男
婦人部長 新澤幸子
監事 柳川澤男
同 近谷文雄
事務局長 檜山貴久
外會員一同

松江市連合郷友會

會長 高尾幸吉
副會長 佐野伊左実
同 長岡利勝
同 福井繁一
同 理事局長兼 原野繁雄

山口縣郷友會

會長 衆議院議員

田中龍夫
外會員一同

事務局
〒753 山口市伊勢大路二五
TEL 083(22)171111

(社)日本郷友連盟 徳島縣支部

會長 高井利亮
理事長 森久徳

愛媛縣郷友會

會長 長谷川迪
副會長 江戶馬太郎
理事長 神野清市
副會長 西村誠次郎
同 婦人部長 森貞蝶代

日本郷友連盟 大分縣支部

支部長 牧野恭三
事務所 別府市東莊園四一
TEL (097)3313335

明けましておめでとう

静岡県郷友連盟

名誉会長	野中俊雄
会長	村松文一
副会長	石川軍治
同	久保田実
同	渡辺文一
同	杉山角藏
理事長	塩崎潮児
副理事長	武田一

福岡県郷友会

会長	三原朝雄
副会長兼理事長	上杉源之
副会長	田中徹夫
同	三小田五雄
同	木村義巳
同	横田靖
同	浦部龍三郎
同	加藤恒太
副会長兼婦人部長	石井忠雄
婦人部長	筒井和子
事務局長	日高清

佐賀県郷友連盟

会長	愛野興一郎
副会長	深川袈裟雄
副会長	空閑初次
同	坂田次男
同	萩原彦次郎
同	武富キヨミ
同	中尾貞次
事務局長	川野順二
経理部長	西山野嘉
広報部長	中山正嘉
庶務部長	田中正稔
体育部長	前田守正
婦人部長	古川雅惠

謹賀新年 長崎県支部

支部長	鈴木田正忠
支部副会長	田中直一
同	浦速雄
同	中瀬正隆
同	森永優
理事長	大坪栄
婦人部長	安藤康子
事務局長	岩本栄

(社)日本郷友連盟熊本県支部

会長	矢野正俊
副会長	緒方基一
同	井芹勝喜
同	佐野幹雄
同	出野芳子
副理事長	紫垣登
副局長	事

鹿児島県郷友会

会長	小野茂
副会長	二間国治郎
同	山正
同	山口正
同	山口正
事務局長	吉永留哉
事務局次長	徳永留哉
外役員	外役員

年 新 賀 謹

乃木神社

名譽宮司 高山 貴
宮司 高山 亨

中央乃木会

會長 水野 一夫

副會長 甲谷 悦雄

理事 橫田 洋

同 中川 勇

同 桂 鎮雄

同 大元 重夫

同 田中 象二

同 齋藤 五郎

同 西尾 欣是

理事兼 桑原 嶽

事務局長

草地貞吾

(日本郷友連盟相談役)

〒182 東京都調布市佐須町

電話 〇四二四(八八)四六八四
五一四一七

郷友連盟

會長

堀江正夫

〒157 世田谷区成城
五一五一二二

電話 〇四八二(四六)三三七

味岡義一

(連盟副會長兼理事長)

〒107 東京都港区南青山五(三)三三
電話 〇四〇七(八七)五八

岡田玲子

(連盟副會長・婦人部担当理事
・婦人部長)

〒174 板橋区常盤台三(七)一三
電話 〇三(九六)〇〇五二

佃藤吾

(郷友連盟副會長)

〒177 東京都練馬区石神井台三三(一)
電話 〇三(九九)七六三二

吉田英一

社団法人日本郷友連盟
常務理事

自宅 大阪市天王寺区味原町四(一)番
電話 〇六(七六)三三三三

矢部廣武

(日本郷友連盟副理事長)

〒275 習志野市谷津三(一)四(一)〇二
電話 〇四七四(五二)二八〇七

香取穎男

(郷友連盟副會長)

〒227 横浜市緑区もみの木台千(四)一三
電話 〇四五(九〇)九〇四六

五十嵐晃

(郷友連盟理事)

〒210 流山市向小金四(高)一三
電話 〇四七一(七四)三六六五

明けましておめでとう

梅野文則
(郷友連盟理事)

小平市学園東町二一九三三五
電話〇四二三(四二)〇八八五

大河内真一郎
(郷友連盟理事)

〒113 文京区白山二四一九三
電話(二二二)六一一一

柏木明
(郷友連盟理事)

〒158 東京都世田谷区東玉川二
電話〇三(七二九)九四六二

日本郷友連盟理事

狩野信行

〒231 横浜市中区鷺山三二

古賀鶴男
(郷友連盟理事)

〒134 江戸川区西葛西
三一九一三五一八〇四

後藤修一
(郷友連盟理事)

232 横浜市南区庚台六一一四〇
電話〇四五(三四)四七一四

佐藤文夫
(郷友連盟理事)

〒352 新座市堀ノ内二四一〇
電話〇四八四(七九)二八八六

力石禎一
(郷友連盟理事)

〒565 吹田市青山台四丁目四九
電話〇六八七(二)五一八六

福岡靖也
(郷友連盟理事)

350 川越市山城一六一一〇
電話(四六)八八八六

松本節
(郷友連盟理事)

〒285 佐倉市宮ノ台
四一九一五

山本英一
(郷友連盟理事)

〒350 13 狭山市入間町
一二三七一六

前川清
(郷友連盟理事)

〒153 目黒区中目黒
二二二一三〇一二四一

野間康一
(郷友連盟事務局長兼理事)

〒273 船橋市海神町南一六五一
ラミール西船橋三二号
電話〇四七四(三七)七三五〇

洗心懇談会

軍恩連盟全国連合会

偕行社

日本遺族会

中央乃木会

千鳥ヶ淵戦没者墓苑奉仕会

日本傷痍軍人会

隊友会

東郷会

水交社会

靖国神社

三笠保存会

厚生省援護局

日本郷友連盟

社団法人

日本郷友連盟

會長 堀江正夫

副會長 赤羽根 澈

同 味岡 義一

同 岡田 玲子

同 香取 穎男

同 佃 藤吾

同 松本 明重

同 瀬川 時造

同 上杉 源之

同 味岡 義一

同 理事長兼 矢部 廣武

同 副理事長 野間 康一

同 事務局長 野間 康一

同 事務局長 野間 康一

同 事務局長 野間 康一

同 事務局長 野間 康一

同 事務局長 野間 康一

年 新 賀 謹

参議院議員

永野 茂門

議員會館

東京都千代田区永田町二丁目一番一
号 参議院議員會館六一六号室

電話

〇三(五八二)三一(内線五六二六)
(五〇八)八六一六(直通)

社団法人日本郷友連盟北海道支部

札幌市自衛隊協力会西区協議会

會長 鎌田 兵一郎

メデカル・サービス社取締役

東郷神社

名譽宮司 大貫 良夫

宮司 筑土 龍男

責任役員 長束 嚴

同 石田 捨雄

同 美澤 傳次郎

相談役 久保田 芳雄

東郷会

會長 石橋 幹一郎

副會長 岡光 吉彦

事務局長 加藤 幹雄

年頭のご挨拶

連盟本部防衛講座世話人 矢部 廣武

同 後藤 修一

明けましておめでとうございます。わが防衛講座もみなさんのご支援のお蔭で、偕行社を会場に毎月第三土曜日の夕方実施しており、昨年末で第三十二回目を迎えました。

米ソの直接対話によって欧州では「冷戦の終結」「新秩序の構築」が謳歌されていますが、アジア情勢の先行きには依然不透明な部分も多く、真の緊張緩和が訪れるか否かについてはまだ予断を許しません。

かかる観点に立つ時、国家存立の基本である安全保障・防衛の問題をしっかりと勉強し、連盟会員としての見識と信念を身につけることが強く望まれます。

首都圏在住の有志は、会員・非会員を問わず奮って本講座を受講されることをお勧め致します。また、周囲の友人や後輩のみなさんにも声をかけて頂き、受講者が一人でもふえるよう、協力して頂ければ有り難く思います。

平成二年の予定次のおりー一月二十日(土)「陸戦の主役―戦車の発展方向」。元防衛庁技術研究本部陸上開発官・近藤清秀氏。二月十七日(土)「急変する東欧・ソ連情勢と日本の安全保障」。防衛大学校教授・瀧沢一郎氏。



広瀬ふみ子先生画 日本水彩画展入選作家

郷友連盟の理念

(昭和五十三年三月總會決定)

わが国の歴史と伝統を尊び、愛国心を高め、郷土の繁栄、日本の安全を図り、世界の平和に寄与する。このため

- 一 私たちは立派な日本人としての修養につとめよう。
- 一 私たちは天皇を中心として全国民の団結を固めよう。
- 一 私たちは道徳を重んじ、公共に尽くし、国民の義務を果たそう。
- 一 私たちは国や社会の秩序正しい進歩を図ろう。
- 一 私たちは力を合わせて郷土を、日本を守ろう。

自衛官募集

男子自衛官

二等 陸・海・空士

○年令 一八才以上、二十五才未満

○初任給 一・二一、〇〇〇円

(食事、宿舎費は無料)

(寝具等は支給又は貸与)

○ボーナス 年三回、四・九ヶ月分

○技術 各種国家技術免許取得の機会があります。

お問い合わせ

東京地方連絡部電話〇三(二六八)三一一一
又は、各都道府県所在の地方連絡部へ



社会党の防衛政策を斬る

郷田 豊
(軍事評論家)

一、「新宣言」と「土井構想」は矛盾している

社会党の防衛政策を検討するには、次の三つの文書をとり上げねばならない。

第一は、党の綱領的文書とされている「新宣言」である。

一九八六年一月の党大会で採択されたこの「新宣言」は、「政権を担当する党としての能力と決意を国民のまえに明らかにする」として、基本政策目標の第一項目で、「非同盟・中立・非武装を実現する」と宣言している。

第二は、いわゆる「土井構想」であり、一九八九年九月一〇日、那須高原での第五回全国政策研究集合で発表された。

「土井構想」は、日米安保条約を維持し自衛隊は存続す

ると述べている。

第三は、社会党がこれまで党として決定してきた防衛政策についての公式の文書、たとえば「三段階非武装中立政策」等である。

第一と第二は完全に矛盾しているから、この党の本音を追求するために第三がどうしても必要になる。

つまり、社会党の防衛政策を斬るには、少なくともこの三つをとり上げることが必要であり、時にはこの三つを重ねて俎上にのせねばならないのである。

二、「土井構想」は党の決議ではない

「土井構想」は「新しい政治への挑戦」と題して、土井委員長が発表したことによって、あたかも社会党の総意を結集したもののよう受けとられているが、決してそうではない。

「新しい政治への挑戦」の総論は「日本社会党中央執行委員長土井たか子」、各論は「土井委員長の提言に関するプロジェクト」の名において発表されている。

社会党の規約によると、党の最高決議機関は「全国大会」である。「全国大会」から次の「全国大会」までの決議機関は「中央委員会」である。「全国大会」および「中央委員会」に対して責任を負っているのが「中央執行委員会」である。

いわゆる「土井構想」は、「全国大会」はもとより、「中央委員会」あるいは「中央執行委員会」とも無関係であり、委員長個人とプロジェクトチームのものである。

八月九日には参院本会議で土井委員長は首相に指名されている。野党による連合政権構想も議論されている時期に、党の総意を結集した防衛政策を示し得ないところに社会党の弱点がある。

実は「土井構想」は、いつでもどのようになっても、「党大会」で修正され或いは否決される可能性を持っているのである。

このような党の決定を経ない「土井構想」を敷衍して、国政の最も基本的な問題である防衛政策について、「安保維持」や「自衛隊保持」を語る委員長や書記長の発言は、いかにも軽率で不遜であるだけでなく、国民を欺瞞

し愚弄するものである。

公党の首脳としては、著しく品位と節操に欠けると言わざるを得ない。

三、「土井構想」は安保廃棄を目指している

「土井構想」は、日米安保条約について、① 外交の継続性に立って維持する。② 非核三原則は厳格に適用する。③ 日米共同作戦は中止する。④ 米軍基地の縮少・撤去をすすめると述べている。

これは大変な矛盾であって、常識的には考えられないことである。②④を押し進めてゆけば、日米安保条約は空洞化され、維持できなくなることは明らかである。また②④を実施すること自体が、直ちに外交の継続性を損うであろうことに、社会党はどうして気がつかないのであろうか。

実は社会党は、一九八四年二月の第四十八回党大会で、「平和のためのプログラム」―三段階非武装中立政策を採択し、この年の党をあげての運動方針とした。

それによると、

第一段階 当面の反核・軍縮のたたかい

第二段階 連合政府のもとでの安保解消による中立宣言

第三段階 自衛隊の縮少・解体による非武装宣言

というプログラムが決定されており、これが社会党の基本的な考え方として定着しているのである。

「土井構想」に見られる非論理性は、この「三段階非武装中立政策」や新宣言の「非同盟・中立・非武装」という枠組みを脱け出せないことに由来すると思われる。

逆に言うと「土井構想」の「安保維持」は、「三段階非武装中立政策」の第一段階にあたるのである。

四、「土井構想」は自衛隊の解体を目指している

「土井構想」は自衛隊について、① 存続させる。② 任務を領域保全に限定する。③ 集団的自衛権の発動は認めない。④ 攻撃的兵器の保持を見直す。⑤ 国家秘密法は認めない。⑥ 有事体制は見直すと述べている。

これもまた大変に矛盾した主張である。日本のような貿易立国の海洋国家が、領土・領海・領空の保全だけで有事を乗り切れる筈がない。集団自衛権の発動を認めないのは、実質的には同盟関係の否定である。これが西側先進国の常識であり、フランスはこのためにNATOの軍事機構を離脱している。兵器というものは、攻撃的にも防衛的にも使われ得る。これが兵器の本質である。秘密保護法も有事体制も、脅感が存在する限り必要である。

社会党は、「非同盟・中立・非武装」を標榜する政党で

あるから、「土井構想」は国際情勢の認識が極めて甘い。しかも自衛隊を「世界三位」の軍事力などと公言している。この政党には西側の軍事常識は通用しないのである。

「土井構想」の②③④は、「脅威論」の否定であり、「反核・軍縮のたまたかい」の延長線上にある。②③④をそのまま実施してゆけば、自衛隊はその存在の根拠・理由を殆ど失うことになり、必然的に自衛隊の解体に至るであろう。

社会党は、「新宣言」や「三段階非武装中立政策」にかんがみて、「自衛隊の存続」を公式には言えないのである。

石橋委員長の「違憲合法論」、その後の「違憲・法的存在論」にしても、最近の山口書記長の「当面、之の存続を認める」という表現にしても、すべて結党以来の非武装中立論そして「新宣言」の枠内のことでしかないのである。

要するに「土井構想」は、見せかけの自衛隊容認論で、本意は自衛隊の解体を目指しているのである。

五、社会党の「自衛隊孤立化政策」と「自衛隊解体計画」

「土井構想」が自衛隊について歯切れが悪い一つの理由は、社会党がこれまで永い年月をかけて、「自衛隊孤立化政策」と「自衛隊解体計画」に真剣に取り組んできているためである。

日本の社会党ほど偏執狂的な「反自衛隊・反軍政策」を

追求し続けている政党は、世界にも珍しい。このため、日本の社会党は、「社会主義インターの異端者」と見られており、十一月三〜四日のフランス社会党、イタリア社会党、スウェーデン社民党、西ドイツ社民党との「社会民主主義政策フォーラム」（於日本プレスセンター）でも、「現実的な政策をとることが政権党への第一歩である」とフランスやスウェーデンから指摘されている。

このような社会党の非現実的で狂信的な体質を如実に示しているのが、「自衛隊孤立化政策」と「自衛隊解体計画」である。その骨子のみを示すと、次のとおりである。

自衛隊を政治的・経済的・思想的に国民から孤立させ、これを解体するための政策

1、自衛隊を政治的に孤立させ、その解体の基礎をつくるための政策

ア、自衛隊違憲訴訟の発展と違憲判決の実現

イ、自衛隊内部における民主的な政治活動の発展

ウ、自衛隊による国民生活破壊の告発

エ、職場、地域への自衛隊の介入、自衛隊協力体制の摘発

2、産軍複合体を阻止し、自衛隊の経済基盤の崩壊をすすめるための政策

(略)

3、自衛隊を思想的に孤立させる政策

(略)

資料 月刊「社会党」、一九七一年一月号

非武装中立の国内的措置

社会党政権は、日米安保条約を廃棄し、自衛隊の解体をはじめとして、諸制度の民主化を推進する。

(一) 平和外交推進、平和中立維持のための諸機関

イ、国防会議、防衛庁、防衛施設庁、公安調査庁等は廃止する。

ロ、文部省を改組し、全教育課程において「平和教育」を必須課題として義務づける。

ハ、防衛大学校は廃止する。

(以下 略)

(二) 自衛隊の解体計画

社会党政権はその成立とともに、ただちに防衛庁設置法、自衛隊法、国防会議に関する法律、その他防衛関係法規の改廃に着手する。さらに、自衛隊員の募集、戦訓訓練、武器購入を停止する。

自衛隊の解体にあたっては、基本的には社会党政権の安定度、自衛隊掌握の度合、国民意識、平和

中立外交の進展度などの条件を勘案しつつ、人員、装備の両面にわたってこれを実施する。

(以下 略)

資料 月刊「社会党」、一九六九年四月号

「新宣言」が「非同盟・中立・非武装」という基本政策目標をかかげている限り、このような計画は社会党内に温存されていると考えるべきであろう。

六、社会党には「国を守る心」がない

野党連合政権構想をめぐる民社党および公明党の社会的批判には、心の問題が欠けている。

社会党は委員長をはじめ靖国神社に参拝しないし、国の行事としての「戦歿者慰霊祭」にも出席しない。この政党は「君が代」「日の丸」にも反対であるだけでなく、日本の伝統を尊重することにも極めて消極的、むしろ反対である。

英霊にこたえるという心情を持たない政党、日の丸や君が代を大切にしない政党、日本の伝統や皇室に対して日本人らしい受け止め方のできない政党に、この国を守るという心があるとは夢々思はれない。

長い間、アメリカと自衛隊に罵詈雑言を浴びせ続け、非

礼とも言える言動を重ねてきたこの政党に、今こそ求められているのは日本人らしい礼節とけじめではなからうか。

社会党は結党以来の左右対立の中で、正念場を迎えつつある。この政党は、もし政権につくことを望むならば、先づ「新宣言」を書き直して、一度はどうしても、国民の前にこれまでのアメリカや自衛隊に対する非礼を詫びるべきである。

幻想的な政策目標をかかげ、しかも礼節に欠けたこの政党が、「新宣言」をそのままにして、「安保維持」や「自衛隊保持」を語るのを鵜呑みにしていると、日本は恐ろしい悲劇的な転落の時代を迎えることになるう。

(十一月五日記)



講演要旨

安全保障を考える (一)

——安全保障は人にあり——

衛 藤 藩 吉

(亜細亜大学・日本
経済短期大学学長)

前書き

本記事は安全保障懇話会のご好意により同会誌第三四一
号より抜粋転載するものである。(編集部)

○—○—○
諸先輩を前におきまして、戦略論などを申し上げるこ
はおこがましゅう御座いますので、今日は非常に基本的な
ことをお話し申し上げたいと思います。

かつて、プロイセンやオーストリア・ハンガリーの軍隊
から包囲されましたフランス革命直後のフランスが、精練
な良く訓練されたプロイセンやオーストリア・ハンガリー
の軍隊を破りました。それは一に革命を守ろうとする明確
な戦争目的と、それから高揚された士気があったからで
す。ヨーロッパ史における永い傭兵の時代がこれで去りま

した。それ以後はいわゆる国民兵を持つ、国民国家の時代
に入るわけで御座います。国民国家におきましては、文字
通り、命を捨てて白兵戦を戦うという兵ができておりま
す。それ以前のヨーロッパにおける傭兵同士の戦いは、よ
く訓練された兵隊達で、高い給料で傭われておりますの
で、これを殺すことは傭い主にとって必ずしも利益でなか
った。傭兵隊と呼ばれる重装備をした軍隊は、大変訓練さ
れるのに資本が掛かっておりますので、傭兵隊長は一人で
もこれを失うことを嫌がったのです。その結果としまして、
ヨーロッパでの傭兵同士の戦争は、肅粛として両軍相見
え、そして大砲の数とか鉄砲の数とかを計算しまして、こ
れは敗けるなと思いましたが、一定の距離まで近づき
まして、傭兵隊の傭い主の君主の面子を立てる限度内にお

きまして戦い、兵力の弱い方が立ち去って行く。そして君主に向いまして、もう少し武器をくれなければ勝てませんと言う。これが、典型的な傭兵同士の戦いだったわけですね。

従って国民兵が出てきて、命を惜しまず一兵卒に至るまで戦うということは、驚異であると同時に、それが故に国民兵は強かったわけでありませう。この西欧の国民国家を学びまして、明治日本で百姓も武器を持たせて訓練すれば立派に戦えるという風になったのはご存じの通りです。

中国におきましても、傭兵同士の戦いは、最初通電合戦をやります。例えば袁世凱と孫文が戦います。第二次革命です。双方で通電合戦をやしまして、全国に向けて電報で、俺の方が正義であると宣伝し合います。その間に一生懸命武器を集める。そして肅肅として相見える。孫文の方は桁違いに武力が劣っておりますからドンドン退却してしまふ。芝居を見ていますと負傷兵が出ているようですが大したことはないのです。

恐らく真剣に戦ったのは、傭兵同士ではあったけれども、大正十五年の郭松齡の叛乱のとき位のものでした。張作霖は自分は敗けたものと思ひ、日本へ亡命の準備をしていたのですが、若冠二十七歳の張学良が、手兵を率いて敵の背後から攻撃する。郭松齡の軍隊は国民党の影響を受け

ており、兵隊達に軍閥反対の教育を行っております。郭松齡は日本の士官学校を出ております。志気旺盛でしたが学良の騎兵に奇襲されて敗れます。従ってこの戦いは凄絶で郭松齡は戦死し、夫妻の死体は当時の奉天の公園に曝されたのです。それ以外の戦争は、非常に安全で、傭兵同士の空を蓋うような大砲の黒煙を双方に巻き上げて、大砲を打ち合う。通電合戦をやる。そして肅肅と近づいて、向うの方が強いということが判ると肅肅として退却する。こういうことをし合ったのです。それを正面から突き破ったのが黄埔軍官学校の学生達で、若い蒋介石によりまして愛国の情熱の教育をうけたこの軍隊が、命を惜しまずに突撃をして、英仏の駐兵の前でも突撃をして英仏の軍隊はビックリして、中国にも命を惜しまずに戦う軍隊が出てきたというので、これ以来中国の軍隊も侮ることが出来ないといふようになったのです。

満州事変以降、日本軍が、寡兵よく十倍、十五倍の中国軍と戦いましたのは、正に国民国家における軍隊、精神教育がよくできていたからで、その精神教育の重要性を皆様方の先輩方は、非常によく認識しておられたわけで御座います。

残念ながら、昭和の初めごろから、精神的訓練が全てに優先するというような考え方が出て参りました。荒木貞夫

大将の如きは、皇軍不敗である、竹槍と握り飯さえあれば白人兵何するものぞというようなことを言つて、それが時の国民感情の中ではそれ程奇異なものとは受け取られなかつた訳です。そういう考え方が手痛い打撃を受けたのが、太平洋戦争です。

太平洋戦争で物量の前に屈服しました日本軍は、今度は警察予備隊、保安隊そして自衛隊を建設するに当りまして、装備の面、特に科学的な火力を重視しました。しかし、実は国民国家の軍隊は、精神的な面が少なくとも半分以上を占める、その半分の方を忘れていてのではないかと、少なくとも保守党の政治家達はお忘れになっているのではないかとということが、私の最大の関心事です。何故忘れたかと申しますと、それは憲法第九条をご覧ください。

大学の国際関係論の教師として、私が東大で最も苦労しましたのは、憲法第九条の政府解釈を講義することでした。どうしてかと申しますと、学生達は、子供の時からごく普通の日本語として、憲法第九条を教わつて来ている。

そこで、「前項の目的を達成するため、陸海空軍その他の戦力は、これを保持しない」というくだりについて、小中学校の先生方の大部分は、日教組の解釈をなさる、自衛隊は戦力を持つているから憲法違反だという風に、小中高等学校で教わつてきた訳です。そこで大学に入って来ます

と、そんな単純な考え方だけを教える訳には行かない、国際関係の複雑さと、政治の現実の厳しさを教えます。スイスやスウェーデンの歴史も教訓として教えます。国を守る武力がキチンとしていれば一九四〇年代後半のユーゴのようにはスターリンと雖もこれを屈服させることは出来ないけれども、ハンガリーやポーランドは何時でもソ連にやられる。そういう現実を考える訳ですが、そうすると彼等は非常になやむ。一方では同じ大学でいながら、憲法の教授で非武装中立が憲法の精神だ、だから自衛隊は違憲だと堂々と説く。ひどい教師になると信念としての非武装中立論を日本にとつて最も安全な道だとこじつけて講義する。学生は益々参る。そういうことを繰り返して繰り返して来た訳です。私は、よく自衛隊の制服の方々が、そういうことを我慢していらつしやる。戦前の少壮将校と違つて忍耐力があまりになりすぎる。ある年度末予算時期に大蔵省に行きましたら、制服の皆様方が、チンピラ主計局員の前で、ビツクリする程ヘイコラしておられるのを見て、戦前を知る私は、時世とは言いながら世は変わったものだと非常に強い印象を受けたことがあります。それ程皆様は忍耐して居られる。自民党は自衛隊の最高指揮官を毎回出しながら、奇妙な憲法解釈に陥つている。これだと五〇%を占めるべき精神的支柱の方がうまく行かないのではないかと、何時も感

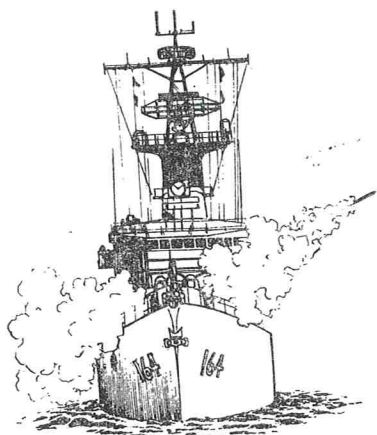
じていますが、いかがでしょう。皆様のご意見を是非聞かせて頂きたい。私なら、憲法違反だと言われるような組織に居れと言われたら我慢出来ない。ですから、或日決心して、もう東大をそろそろ退官するので、「防衛庁長官は憲法改正論者でなければいかん」と産経の正論に書きましたら、どれだけ抗議の電話や葉書が来たとお考えですか。私としては、実は初めて二十数通の葉書や手紙が来ました。全部抗議の手紙です。「ようやく」と励まされたのは僅かに二通の電話だけでした。これは民族派の人でした。そしてあと六・七通の電話は抗議の電話でした。私は、国際社会の現実と国民感情とはズレているなと思いましたが、そこで、それ以来それ丈国民感情がズレて居るのなら、国際関係を分析する研究者の一人として発言の義務があるなと思ひ、「自衛隊は憲法違反だから、憲法を改正するか、または自衛隊を国家警察隊みたいなものにすべきである」と露骨に新聞に書きましたが、これは反応ゼロでした。平和論者というのは、自分に都合のよい所だけ読んで全部を讀まない。防衛庁長官は現行憲法を守るが、信条としては憲法改正論者でなければならぬという言い方をすると、情緒的な反対がドツと起こるのだと思ひます。

毎回の世論調査でも八〇%が自民党を容認し、同時に六〇ないし七〇%が現行憲法を変えるべきでないということ

です。

これは、論理的には矛盾していません。しかし、国民感情の現実からすると、チツトも矛盾して居ない、対外的な国際社会を見たときには、安全保障力としての軍事力の必要を痛感する。また自衛隊が災害派遣などで事実活躍しているのを見ると、自衛隊さんは頼もしいではないか、ということになる。これと憲法第九条の美しい理想との両方ともに、国民は欲しいのです。相反する感情が共存しているのです。朝霞で戦車がゴーゴーと地鳴らししながら行くとなると、憲法第九条を守ろうという感情が表面に出て来ると、憲法第九条の問題や、水爆が海に落ちたという時には、そちらの側の感情が表面に出てくる。

(つづく)



〈特集〉新中学校社会科教科書の分析

北方領土に関する記述について

森 本 真 章

(連盟顧問)

昭和五十八年六月七日、次のような要望書が、当時の瀬戸山文部大臣と、北方領土担当大臣の丹羽総務庁長官に提出された。

要望書

現在、全国の中学校で使用されております社会科教科書(地理、歴史、公民)の「北方領土」に関する記述は、ソ連による「北方領土」占拠の不当性、及びわが国の「北方領土」返還要求の正当性を生徒に理解させるには、甚だ不十分であります。のみならず、むしろソ連側の主張を代弁するかの如き記述傾向が多くの教科書にみられることは、国民の悲願である「北方領土」返還の実現にとって、まことに由々しき問題であ

ると思料いたします。

よって、「北方領土」に関する教科書記述の是正について、別添資料「北方領土に関する教科書の記述——その現状および提言」をご参照のうえ、早急に善処されるよう、ここに強く要望するものであります。

昭和五十八年六月七日

秋山 篤彦(時事問題研究所専務理事)

井上 茂信(外交評論家)

宇野 精一(東京大学名誉教授)

加藤 栄一(筑波大学助教授)

気賀 健三(慶応義塾大学名誉教授)

黒田 巍(東京教育大学名誉教授)

佐藤 和男(青山学院大学教授)

曾野 明 (外交評論家)

滝原 俊彦 (帝京大学教授)

中川 八洋 (筑波大学助教授)

名越二荒之助 (高千穂商科大学教授)

福岡 克也 (立正大学教授)

法眼 晋作 (元外務次官、国策研究会理事長)

細川隆一郎 (政治評論家)

村松 剛 (筑波大学教授)

森本 真章 (福井工業大学教授)

(五十音順)

右の北方領土に関する教科書記述の是正を求めた陳情がきっかけとなって、昭和五十八年十二月四日、青山学院大学において「教科書正常化国民会議」の創立総会が開催され、事務局も設置して、本会の活動が始まったのである。

北方領土返還には根拠がないという中学生

当時の教科書の北方領土に関する記述は、実に寒心にたえないものであった。その状況を少しふりかえてみる
と、

昭和五十八年の初夏ある中学校の社会科の教師から、次のような話を聞いた。

「いま使っている歴史の教科書で授業していると、比較的良好に見える生徒から『いまさら北方領土がわが国の領土であると主張しても、その理由や根拠がないではないか』という質問が、たびたび出ます。」

「それほどこの教科書ですか」と尋ねてみると、

清水書院の教科書(『日本の歴史と世界』)です」という。

そこで、その教科書を詳しく調べてみた。

まず、索引の欄で「北方領土」を探してみたが「北方領土」はなかった。「北方領土」は、索引でも無視されていたのである。しかし、同じ索引の欄に、「ヤルタ協定」とか「サンフランシスコ平和条約」はあり、こちらの方は重視されていることが分かった。その「ヤルタ協定」について、この教科書は、次のような説明を行っていた。

「一九四五年二月にアメリカ・イギリス・ソ連の三首脳がクリミア半島のヤルタで会談を開き、戦後のドイツの処分、ソ連の対日参戦を協議した。このとき、ソ連はドイツの降伏後二、三か月後に対日戦に参戦し、その代わり南樺太と千島をソ連に渡すという密約が交わされた。」(清水書院二六五頁)

言うまでもなく、ヤルタ協定は、わが国がポツダム宣言を受諾した際、その存在すら知らされていなかった秘密協定であり、いわば当事者ぬきの、「欠席裁判」によって決

められた協定である。従って、わが国がこのような協定に拘束されるいわれは全くない。

このことは、アメリカ政府も一九五六年の公式見解で「ヤルタ協定は、その当事国による何らの最終決定をなすものではなく、また領土移転のいかなる法的効果をもつものでもない」と認めている。

しかし、教科書には「密約」という言葉はあるもののこのような説明は全くなされていなかった。つまり、ヤルタ協定には国際法において何の拘束力もないという説明がなされていなかったのである。

また、サンフランシスコ平和条約については、次のような説明がなされていた。

「一九五一年九月、サンフランシスコで対日講和会議が開かれた。会議には五一か国が出席し、日本と四八か国とのあいだに平和条約が調印された。

この条約で、日本政府は朝鮮の独立を承認し、台湾・千島列島・南樺太などに対するすべての権利を放棄し、また日本領土である沖縄・小笠原・奄美の諸島を引き続きアメリカの施政権下におくことに同意した。」(同書、二七九頁)

このように、この教科書は「千島列島を放棄した」ことを記述していたが、サンフランシスコ平和条約で放棄した「千島列島(クリル諸島)」のなかにはわが北方四島は含ま

れていないという説明はなされていなかった。これでは、日本が国後・択捉も含めたすべての千島列島を放棄したかのように誤解されかねない。

そしてそのあとに、次のような記述があった。

「しかし、齒舞諸島・色丹島はもとより日本固有の領土である国後・択捉両島についても、ソ連が引続いて占拠し、北方領土問題として残された。日本は、この島々の返還を強く要求している。」(同書、二七九頁)

このように、北方四島が「わが国固有の領土」であり、その返還を「ソ連に要求している」ということは、一応記述していた。しかし、だからといって、この教科書が北方領土問題についての確に記述しているとは言えない。このような教科書で学んだ生徒は、北方領土問題について、次のような疑問をもつと思われる。

「北方領土は、千島列島の一部なのだから、たとえそれがわが国固有の領土だとしても、ヤルタ協定によってソ連のものとなるのが約束されており、サンフランシスコ平和条約においても、日本は千島列島を放棄すると宣言したのだから、いまだ北方四島はわが国固有の領土だから返してくれといっても筋が通らないのではないか」

これがすなわち、先に紹介した中学生の質問だったのである。当時の清水書院のような教科書で学ぶ限り、北方領

土問題については右のようにしか理解できないことになつてしまふ恐れが多分にあつた。

このような記述は、清水書院の教科書だけではなく、当時のすべての教科書に共通しているものであつた。

やや改善された北方領土の記述

その後、中学校の社会科教科書は、昭和五十九年と昭和六十二年度の改訂によつて幾分改善された。

さて平成元年三月三十一日付で一部改訂された新中学校教科書が、平成二年四月から全国の各中学校で使用される。その教科書の「北方領土」についての記述を調べてみたので、その概要を次に述べることにする。

各教科書とも「北方領土」が日本固有の領土であること、及び、現在ソ連が不当に占拠しているのでその返還を強く要求している旨の記述がなされている。

特に改善された記述の例をあげれば、

日本書籍（歴史二八七頁の脚注）には、「北方四島はサンフランシスコの平和条約で日本が放棄した千島にはふくまれていない」と明記している。

また、帝国書院（歴史三一―頁脚注）は、「ソ連が占領している国後島、択捉島、齒舞諸島、色丹島（北方領土）」は日本固有の領土であり、平和条約で放棄した千島にふく

まれていない」と記述。

東京書籍（地理二七五頁）も、「北海道本島の東の北方四島は戦後放棄した千島列島にふくまれていないので、その返還を要求している」と記述している。このように北方四島は日本固有の領土であること、及びソ連の占拠の不当性が何れの教科書においても強調されている。

東京書籍（公民二三七頁）には、北方領土問題について「千島列島は日本の領土でしたが、第二次世界大戦後、サンフランシスコ平和条約によつて放棄した千島列島にはふくまれていないので、齒舞諸島、色丹島とともに国後島、択捉島の北方四島の返還をソ連に求めています」と地図つきの囲み記事となつている。

ところで、ソ連はわが国の経済力、技術力（ハイテク）を、戦略的立場から導入するためにわが国と友好条約を結ぶことを狙っている。これに関連して、中学社会科教科書は、北方領土をめぐる日ソの対立関係を解決しない限り（北方四島を日本に返還しない限り）、友好条約などには応ずべきではないとまでは記述していないが、そのような意向が全体的記述の雰囲気の中にあらわされているのは、今までになかった改善点といふことができる。

こうした、北方領土についての改善は、文部省教科書課を中心とする努力、教科書問題を考える議員連盟の方々の

御努力と、われわれ（教科書正常化国民会議）の会員のこ
支援によるところが多いと考える。

残された問題点

しかし、教科書記述には、まだまだ改善しなければなら
ぬ問題点も多い。

例えば、北方領土問題を考える際、非常に重要な意味を
もつものに、米・英・中三国による一九四三年のカイロ宣
言、ならびに一九四五年のポツダム宣言がある。

カイロ宣言は、連合国側が、この戦争によって利益を求
めることはせず、「領土拡大の念をもたない」こと（「領土
不拡大の原則」）、さらに日本が「暴力および強欲によって
略取」した地域はもとの国に返還さるべきこと、を決めた
ものである。

日本はポツダム宣言を受諾して降伏したが、ポツダム宣
言は戦後の領土処理について、カイロ宣言の原則を適用す
ると述べている。

ソ連は、対日参戦と同時にポツダム宣言に加入すること
によって、カイロ宣言の原則をも同時に受け入れた。従っ
てソ連は、この戦争によって自国の領土を拡大しないとい
う「領土不拡大の原則」を守る義務を負ったのである。

国後・択捉をはじめとする北方四島は、歴史上かつてソ

連領であったことは一度もない。

それゆえソ連がこれら北方四島を占拠し、自国の領土と
することは、カイロ宣言ならびにポツダム宣言の原則を自
らふみにじるものである。

また北方四島は、日本が「暴力および強欲によって略取」
した地域ではない。従って、ポツダム宣言やカイロ宣言の
趣旨からいっても、日本がこれらの島々を放棄しなければ
ならない理由は全くない。

これらのことは、北方領土問題を理解するためにはどう
しても知っておかねばならない極めて重要なことであ
る。しかし、これら一連の事項を説明した教科書は、小・
中・高等学校を通じて、まだないのである。

また、北方領土がわが国固有の領土であることを明らか
にするもの一つに、一八五五年の「日露通好条約」（日
露和親条約、下田条約ともいう）がある。これは、それま
で明確でなかった日本とロシアの間の国境を、択捉島と得
撫（うるつぶ）島の間で定めた初めての条約であり、現在
問題となっている北方領土が、古来からの日本領土である
ことを両国が法的に（平和裡に）確認した歴史的な意義を
もつ条約である。（この条約については、中学の歴史教科
書に記述されている。）

その後、一九一七年のロシア革命によって、帝政ロシア

はソビエト社会主義共和連邦となったが、日本と帝政ロシアとの間に締結された条約は、革命によっても破棄されることなく、その効力は現在でもなお存続している。

このことは、一九二五年の「日ソ基本条約」により両国の間に法的に確認されている。すなわち、その第二条に「日本と帝政ロシアとの間で締結されたあらゆる条約は、今後日・ソ間で特別なとりきめができるまでは、ポーツマ条約を含めてすべて有効である」と定められているのがそれである。

しかしこの重要な日ソ基本条約については、何れの教科書にもその記述がなされていない。右のことがらは今後改善されるべき、重要な問題点であろう。われわれは、北方領土の問題のみならず、これまで本会が指摘してきたような残された問題点について、その是正のために一層の努力を傾けたいと考える次第である。会員各位の更なるご支援を希つてやまない。

(福井工業大学教授)

(教育正論第三六号より転載)

図書紹介

陸軍士官学校名簿(第II巻)

この名簿は五十期以降、最終期までの陸士、航士、軍官校、陸経(但し、少候、将校学生欠)、陸幼の卒業、在校者全員を詳細に収録しており、偕行名簿と異なる次のような特色を有している。

一、偕行名簿の当該期収録者数は、一二、五五五名であるが、本名簿には約三四、四二五名が収録されている。

1、生存者については、当時の住所、氏名、勤務先、電話及び予科、本科の中隊長、終戦時の所属部隊名等。

2、戦死没者については、氏名、戦死没年月日、場所、所属部隊、御遺族のご住所、お名前、電話等。

二、従つて、この名簿によつて、先輩、同期の詳しい消息を知ることを得、戦記、戦史等を研究される場合も該当者の詳細を知ることを得活用されるものと思ひます。是非一冊座右にお備えをお薦めします。

定価は二五、〇〇〇円でありますが、直接郷友連盟本部にお申込の会員に対しては、送料込み、一五、〇〇〇円で頒布して頂くよう出版元と話がついております。ご希望の方は、はがきに郵便番号、住所、氏名、電話番号を明記の上直接連盟本部にお申込み下さい。直ちに出版元から名簿に代金請求書を添えてお送り致します。

(編集部)

郷友オピニオン

時局随想

寺崎隆治

(連盟相談役)

○郷友九月号より郷友オピニオンが設けられ気軽に時局問題、連盟の活動随筆、戦争体験等について寄稿できることは、血の通う連盟の活動を活発にするのに役立つ画期的プランであり会員各位の発表をご期待いたします。

○最近の「郷友」を読んで共感した事項は、九月号「郷友」の巻頭言に掲載の堀江会長の「世界は今柔軟な冷戦の最中にある」及び九月号及び十月号に掲載の「日本の将来を思う」(参議院議員十二年間を振り返って)という国会

における十二年間にわたる真剣な活動を通じ痛感された日本の防衛の具体的施策について忌憚なく詳述されたことに敬意を表すると共に、友好諸団体と協力し政府、国会、国民に強く訴え、実現を熱望致します。

また、九月号に杉田名誉顧問掲載の国家安全保障より見たる「リクルート事件」も全く同感で政界特に自民党の徹底的体質浄化を切望すると同時に戦後四十四年、わが国の政治が、軍事、国防を無視、欠除したもので速かに是正させる必要を痛感しました。

○来年十一月の即位の大礼は現行の皇室典範により国事行為として実施されますが、これと不可分の皇室伝統の大嘗祭については目下政府委員において検討中であり、平成二年早々発足の即位の礼委員会でも審議、国会の議決を経て決定されますが、去る二月二十四日の御大喪において、政教分離の小細工が世界各国の物笑いになったことにも鑑み、大嘗祭が皇位継承の重大な国事行為として実行されることを熱望いたします。

○七月の参議員議院選挙において与党が大敗したのは、終戦後四十数年間政権担当による驕慢、マンネリズム、消費税のPR不足、リクルート問題等々に起因するもので野党に政権を渡せというものではない。日本国民は熱し易く冷め易く、ムードで動き易い。野党の連合政権も色あせつつ

ある。与野の真剣な反省と内外の信頼回復を望んでやみません。

○戦後四十四年、戦争の体験者も少なくなり、時代と教育が変わり、日本の再建、今日の繁栄が、昭和天皇の御聖徳や英霊のお蔭であることを忘れ、長崎市長のような天皇の戦争責任を云々するものや、去る九月、一国を代表し米国防洋艦々長が長崎市の原爆記念碑に捧呈した花輪を足で踏みつぶすものがでるなど歴史教育の重大性と国際人としての教養の必要を強く感じます。

○私が特攻隊慰霊奉賛会の副会長を拝命している関係もあり、九月二十三日世田谷特攻観音式典の際会長竹田恒徳様から「人生八十年をふり返って」という小冊子をいただき感銘深く拝読いたしました。その冒頭に日本少林寺拳法連盟の始祖宗道臣先生（大哲学者）の言葉「われわれ日本人にはみずから考え選択するという姿勢が欠除している」を会誌で見てハッと、本年三月四日傘寿（満八十歳）を迎えるに際しその御体験を通じて「スポーツを通じての奉仕と役得、自己流体操、自分の健康法、百薬の長（お酒）との対応」をユーモアにつづられたのが、この小冊子であり、お許しを得てこれを「郷友」に載せられたならば読者に大いに役立つのではないかと思います。

（平成元年十月十三日記）

講話「防衛力の実態と課題」 を聴講して

岸田 清

（本部防衛講座研修
員、会社員、28歳）

九月十六日、市ヶ谷の偕行社で行われた「防衛講座」に参加した。私としては二回目の出席である。三連休中にもかかわらず三十余名の出席者があって驚かされたが、今回から陸上自衛隊の幹部学校指揮幕僚課程（通称CGS）の学生（一尉が主力）が大挙して参加したためと聞かされた。課外時間には自衛隊の外に出て、幅広い教養を積むことが目的だという。CGSといえば旧陸軍の陸大に相当する自衛隊の最高学府である。彼らが郷友連盟の防衛講座に来るということは本講座が防衛のプロにも十分通用する内容を取り上げていることの証左であり、自分も防衛プロの仲間入りをしたかのような気分にはさえる。

今日の講師は元陸自・東北方面総監の横地光明氏。テーマは「防衛力の実態と課題」。そのお話は、私のような素人にも分かりやすい噛み砕いた内容のものであり、よく理

解することができた。特に、陸上自衛隊の抱える問題点についての分析は的確かつ具体的であり、よい勉強になった。

現在の陸自十八万体制は昭和二十年代後半の池田・ロバートソン会談において決まったといわれ、当時の池田蔵相は、「日本は国内で防衛作戦をやるのだから第一線部隊の戦力を整えれば十分であり、補給・整備などの後方支援機能は民間の力を活用すればよいから、そのための兵力整備は必要最小限度に押さえればよい」と考えていたという。

それから三十年以上も経った現在においても有事法制などはほとんど整備されておらず、民間の支援は全く期待できないとのことで、自衛隊の有事対処能力は果たしてこれで大丈夫だろうか、少し不安になった。

有事法制の問題点として、有事における土地の収用、弾薬の輸送（特に青函トンネルの通過）、陣地や障害物の構築、その他解決すべき事項が山積しているのに、これらのほとんどが放置されたままになっているとのことであった。

国民に対しては「国土防衛は自衛隊（だけ）がしっかり行う」と言っておきながら、政府は自衛隊に対して必要な人員も装備も法制も十分に与えていない。つまり「二枚舌」を使っていると批判されても仕方がない状態なのであ

る。これは、選挙権を行使している国民の方にも責任があるといえよう。

もう一つ、気になったのは「人材確保」の問題である。

いま世間では、労働力人口の減少と好景気による入手所要の増大とによって、人材を確保することの困難性が日増しに高まっている。このような状況のもとで、民間企業では職員の福利厚生施設を強化したり、新人募集のための予算や人員を増加するなどによって対応している。ところが自衛隊の方では、「社会的な地位」も「名誉」も「金銭的な処遇」も大した期待ができないのに、毎年二十万人以上の新隊員を募集しなければならないというのだ。そのための努力がいかに大変なものであるかが、講話を聞いてよく理解できた。

最後に先生は、「日本は決して、いわれるような軍事大国ではない」ということを、従来一般に言われてきた「国防費の単純ドル換算による比較」ではなしに、「生活指数」という、我々の生活感覚により近い換算方式を用いて比較し証明された。「世界第三位」とか「米ソに次ぐ軍事費大国」という誇大表現が、いかに実態とかけ離れているかがよく認識できた。

お話が終わったあと、活発な質疑応答が行われた。現役

の自衛官の一人が、「愕然とした。我々自衛官も、もっとこのような実態を国民や政治家に訴えるべきではないか」と発言した。私も、まさにその通りだと思った。我々青年は、防衛講座で知り得た知識や物の考え方を自分だけのものとしておくのではなく、友人・知人たちに話して理解してもらふことにより、また、この素晴らしい講座を一人でも多くの参加者に聞いてもらうことによつて、「国の防衛のあるべき姿」に一步でも近づけることができるのではなからうか。

私はこれからも本講座を大事にし、多くの先生方から防衛に関する知識を精一杯吸収するとともに、講座に一緒に参加している同志の人たちとも積極的に意見を交換し合つていきたいと考える。

〈毒舌〉時評

○土井構想質疑対談の放映を見て

岩 政 寛 隆

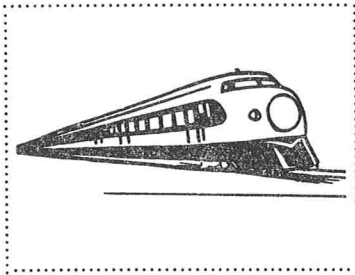
(山口県支部)
通津郷友会名誉会長

昨九月十一日、社会党土井委員長の連合政権構想につい

てマスコミを代表してかのようなNHKのテレビ対談を見て私の強く感じたことは、土井さんのイメージアップの為NHKが仕組んだ民心誘導の茶番劇の印象が強かった。NHKの質問は土井さんの構想を宣伝普及するお手伝いであつて、社会党のこれほど大きな変節、豹変の核心を突いた質問は一言もなかった。今!! 吾々国民が最も知りたいポイントは政治の流れを変えるのだと言う社会党の真意は、国体護持なのか、革命なのかと言うことであり、昭和天皇大喪の儀に見せた天皇否定の行方である……社会党の党首として自民党の海部首相と総理の座を競う資格はあつても王座を狙う資質はあるまい。若しその自惚があれば一大事だ……「天皇は君臨すれ共統治せず」的変則な憲法制定時の国民の苦渋の史実を知らないのか……民本主義の明治憲法下に育つたよさを忘れ、政権という私欲を満喫する為、国柄に合はない主権在民の幟を樹て人を惑はし己も惑う餓鬼道の自覚はないのか……」党支配の流れさえ替えれば更に大きな国民利福が達成出来る保証はどこにあるのか又その方法論は野党連合の一本道と思ひ込んでいる様だが、例え衆議院選で自民党が過半数を割つても革命成就と見るのは早とちり、国体護持(保守)連合だつてあり得る。国民は革命を望んではおらない……公明・民社・社民連の正念場も今ここにある。

安保は継続するがその骨抜きを狙い、自党の主体性強化の詭弁は弄するが、核の持ち込みについても治外法権を犯して外国軍艦の臨検をどうしてするのだ。領海侵入の原潜をどうして捕捉するのだ。日米共同作戦の中止、米軍基地の縮小撤去、自衛隊の攻撃兵器保持の禁止とどれ一つとって見ても社会党には軍事常識すらない。これで国政が任せ得ると思うか、NHKならこの位は質して貰いたかった。完

(H元9、12 朝記)



《保科善四郎白寿記念誌》A5判：二三〇頁

海軍省最後の軍務局長として「終戦の御前会議」に出席、戦後は新海軍の再建、国会議員として「小笠原群島の返還」に貢献など歴史的記録。

頒布価格二〇〇〇円(送料三〇〇円)

郵振・東京七一―二三八〇一(保料善四郎先生の白寿を祝う会)平成元年十二月四日発行

《日本の国防総括編一号》B5判：二六〇頁

機関誌「日本国防」総括編第一号(創刊号)第十号)は安全保障に関する参考文献。

頒布価格二〇〇〇円(送料三〇〇円)

郵振・東京六一―七四〇五四(財団法人日本国防協会)平成元年十二月四日発行

東京都千代田区永田町二―一〇―二TBR四〇七

☎〇三―五九三―〇四八〇 五八一―四〇〇―一



東ヨーロッパに相踵ぐ

齋藤

忠ちゆう

（国際政治・軍事評論家
日本を守る会代表委員
連盟顧問）

動乱の事態

もはや対応の途も無い

共産主義破局の事態

第二次世界大戦終つて後、はやくも四十五年。だが、そのあいだも、東と西の二つのベルリンを分断する「ベルリンの壁」は、人類の世界を包む「冷たい戦争」の象徴として存続してきた。

それ故にこそ、いま、そのベルリンの壁の事実上の崩壊は、結局、共産主義ドイツの全国境の解放を意味すると受け取られざるを得ないであろう。

西側諸国にしてみれば、まことに思いも及ばなかった変化と言うほかはあるまい。

無数の落書に掩われた壁そのものは、今もなお、二つのベルリンを分断しては居るのだが、もはや、両域の住民たちの自由な交流を妨げ得るものではない。

本年に入って以来、その急変の日までに、西ドイツへ脱

出した東側住民の総数は、実に、十七万人。

その東ドイツ——正確に言うならば、「ドイツ民主共和国」——の人口総数は、一千六百六十四万である。したがって、この脱出者の数は、東ドイツ全人口の一パーセント強に当たることになる。これは、もはや対応の途もない破局の事態と言わなければなるまい。

その変革の怒濤は、遂に、ブルガリア人民共和国にまで及んだ。この国の共産党書記長ジフコフは、結局、辞任を承諾せざるを得なかったのである。

だが、その急変の背後に

潜むものは？

確かに、すべては、巨大な歴史的变化である。だが、これを、簡単に共産主義の終局と断ずることは、共産主義というもの——すくなくとも、ソヴィエト社会主義共和国連邦が代表する現実の共産主義の悪魔的本質を、あまりにも

甘く見過ぎた判断と言わなければなるまい。

いまゴルバチョフ書記長が政治的生命を賭けつつある「ペレストロイカ」(再編)の政策にしても、また、同じである。これを「共産主義の自壊」と見ることは、これまた、甘過ぎる解釈と言わねばであらう。

「ペレストロイカ」は、もとより、「マルクス・レーニン主義の放棄」を意味するものではない。これは、言うならば、「外部の世界に対する共産主義の化粧直し」とでも言うべきもの。

外に向かって軍備削減の約束を繰り返し、平和追求の仮面を装う「グラスノスチ」(開放)と共に、積年のマルクス・レーニン主義体制がもたらした経済的破局を救うための唯一とつ残された手段なのである。

すべては、七十年に及ぶマルクス・レーニン主義体制がもたらした経済的破局の地獄の事態を脱れ、自由主義諸国の科学技術の分野における積年の努力の成果を有無を言わず盗奪するための唯一とつ残された手段であると言わねばであらう。

僅かに数カ月の間に

相踵ぐ激変

それにしても、東ドイツの国民がハンガリー・オースト

リア両国の国境を突き破って西ドイツへなだれ込んだ奇怪な事件が突発したのは、この夏八月下旬。わずかに数カ月前のことである。その短い時日のあいだに、これほどまでも大規模な東ドイツ市民の脱出の大なだれが実現しようとは！ そもそも、誰が考え得たであらうか？

その改革の大津浪は、遂に、ブルガリアにまで溢れ込んで来た。この国の共産党書記長ジスコフは、結局、辞任に追い込まれたのだ。

そのあいだにも、東と西のふたつに引き裂かれたドイツの再統一の動きは、俄かに進みつつあるように見える。その背後に動きつつある著名な人物の中には、実に、フランス大統領ミッテランの名さえも見られるのだ。

現に、この十一月初め、彼は、みずから西ドイツの首都ボンを訪れ、二日にわたって、コール首相と会談を行なっている。

その直後の記者会見の席で、彼が公然と述べた意見は、「もしドイツ人にしてそれを希望すると言うならば、東西ふたつのドイツの再統一への動きは、まさしく、正当のものと言わねばであらう」という、極めて肯定的なものであった。「ヨーロッパの責任ある政治家ならば、これを考慮に入れずして将来を考へることは不可能であらねばならない」とまで断言して居るのである。

最後の決定はドイツ民族 自身の意志に、また力量に

フランス共和国大統領は、更に語を続けて、「それにしても、いま、なによりも重要な問題は、ドイツ人自身が何を希望しつつあるかである。また、そもそも何を為し得るかである」と述べて居る。

結局、ミッテランが強調しつつあるのは、「最後の決定は、ひとえに、ドイツ民族自身の意志に、——また、力量にかかるといふことであらう。

いずれにしても、西ヨーロッパの最も主要な国家の首脳が、二つのドイツの再統一の問題に関して、これほどまでに肯定的な見解を表明したことは、あからさまに言つて、まことに思いも及ばぬ事実であつたと言わなければなるまい。

東・西ふたつのドイツの再統一に就いては、今日まで、ヨーロッパのすべての国々に、多少の差は在れ、容易ならぬ不安と恐怖の思いが在つたのである。

七千八百万の人口を擁して

ヨーロッパ中央に生まれる統一国家

ドイツ連邦共和国（西独）六千一百万、ドイツ民主共和

国（東独）一千六百六十四万、——併せて七千七百六十四万の人口を擁して、ヨーロッパの中央に広がる巨大な統一国家。考えて見るだけでも、周囲の諸国にとっては、容易ならぬ恐怖の対象であらねばならない。

それらの諸国の国民が、東西ふたつのドイツの再統一の動きに恐怖と不安を——すくなくとも冷淡な反応を示すことも、もとより、当然であらねばならないのだ。

コール首相は、「東ドイツ国民の胸に燃える民族自決への激しい意思は感じられる」と言いながらも、「現実には、ドイツ再統一の明確な計画は存在しない。まして、その進行の時間表などが在るうはずは無かろう」と言う。

だが、果たしてそうであらうか？ その通りであらうか？ いま、東ドイツ内部に跡を絶たず激発しつつある反対運動は、その断言を真つ向から否定するものでなくて何であらう？

ホーネッカー前政権の中核を成しつつあつた閣僚たちが、また、党幹部たちが、いま、次ぎ次ぎにその地位を追われてゆくのは何のためだ？

ホーネッカーその人の愛妻、国民教育相マルゴットも、つい最近に、辞任を余儀なくされた。十一月二日の閣議の直後のことである。

一九六三年このかた、実に二十六年にわたつてその地位

に在ったものを。いま、「個人的理由」によつて、去つてゆくのである。年齢も、まだ六十二歳。政治家としては、花の盛りの年頃と言ふべきではないか？

東独革新の組織「人民の鎖」

「鎖」結成の呼びかけ

その東ドイツの在野組織の中でも最大の勢力は、言うまでもなく、「新フォーラム」である。それが十一月二十六日に行なつた新しい呼びかけは、更に、全ヨーロッパの関心を呼んだ。それは、東ドイツの全土にわたる革新の組織「人民の鎖」の結成を要求したものであつたのだ。

その結成の目的は、東ドイツ憲法第一条の廃棄を要求することに在つたのだが、——その問題の第一条こそ、東独共産党に国政全般にわたる指導的役割を許容しつゝある規定なのである。

これは、いまソ連国内に相次いで起りつつある炭鉱労働者の争議が要求しつゝある「ソ連憲法第六条の廃棄」と全く本質を同じくするものなのだ。

いわゆる「ヤルタ体制」の崩壊は、いづれにしても、もはや避け得べくもない。

共産主義世界における致命的な経済危機。更に、これに伴う政治の崩壊が、この変革を余儀なくしつゝあるのだ。

更に、この事態に対するゴルバチョフのソ連の応待は、いやが上にも東欧の変革を加速化する結果を生んだ。しかも、その改革の激変の中で、他のどの国よりも改革を洗つて居た東ドイツが、いま遂に、その変革の怒濤に巻き込まれたのである。

この事態は、また、当然、チェコスロバキア社会主義共和国に、更にブルガリア人民共和国に強大な影響を及ぼさざるを得ない。ワルシャワ条約機構は、これらの変転の結果として、すでに形骸化しつゝあると言ふべきであろう。

それにしても、いま東ヨーロッパに生まれつつある重大な変化は、一篇の小論文で説き尽くし得るところではない。更に次の、またその次の機会をお与え戴きたい。



軍事常識

信頼醸成措置

五十嵐 晃

(連盟理事)

昨年7月ソ連太平洋艦隊が日本海で行なった演習に、日・米・中をはじめアジア・太平洋地域15カ国の海軍関係者をオブザーバーとして招待したことがあった。タス通信によれば、「太平洋地域の海軍分野での信頼醸成と相互理解のため」といつている。

ソ連は早い時期から、『アジア安保構想』なるものを提唱し、また最近は『アジア・太平洋非核地帯構想』とか『極東における信頼醸成措置』などをいっだしている。しかしながら、衣の袖から常に鏝よぎがのぞいている状況では、関係諸国からまともにとりあわれることはなかった。前記のオブザーバー招待にしても、具体的な事例として初めてのことであったが、やはり実際にこれに応じたのは、ごく一部の国にとどまった。だがこの種の呼びかけは今後とも続くであろうと思われる。

そもそも『信頼醸成措置』(CBM)という言葉は、欧州正面で1973年に始まった全欧安保会議で、はじめて公式の用語として使われるようになった。この時の会議(35カ国参加)で、兵力25万人以上の規模の軍事演習の事前通告義務や演習オブザーバーの招請を規定として最終文書にもりこんだ。ある資料によれば、この規定ができた1975年から86年の間に、NATO(大西洋条約機構)側が45回、WPO(ワルシャワ条約機構)側が9回、それぞれの演習にオブザーバーを招待しているという。

その後さらに、一定規模以上の陸上の軍事活動の事前通告やオブザーバーによる陸上の軍事活動の監視制度が導入されることになった。これは、第2回全欧安保再検討会議の結果設けられた欧州軍縮会議で合意されたものである。軍事活動の監視制度では、参加35カ国は他国の地上軍の活動について現地視察を要求する権利を認められるとともに、他からの視察要求を拒否することはできないものとされている。各国は、年3回(各回48時間、同一国からは年1回に限り)視察を認めることを義務づけられ、要請に対しては24時間以内に回答を与え、36時間以内に入国できるように処置するとともに、視察のため必要な各種の便宜を提供することになっている。1987/88年の実績は次表のとおり。

	NATO	W P O
被視察回数	西 独 5 ト ル コ 1 ノルウェー 1 英 1	ソ 連 4 東 独 4 ハンガリー 1 ポーランド 1
視察回数	米 5 英 2 ト ル コ 1 西 独 1	ソ 連 5 東 独 2 ポーランド 1 ブルガリア 1

(源：西独軍事誌)

通常戦力交渉の開始を決定するとともに、並行して新たな信頼醸成・安全保障促進措置を作成するための交渉を行なうことで合意している。

このように、欧州の正面では、広い意味での軍備管理の分野として、信頼醸成措置がとり上げられてきている。

ひるがえって、アジアの正面では、大いに事情を異にしていることに留意する必要がある。

①、現在欧州で進められている通常兵力交渉や信頼醸成措置は、地上軍主体のものであり、一部の航空兵力を含むものの、海・空軍全般には及んでいない。これはほとんどが地続きの欧州大陸にとっては当然のことであろう。一方、アジアでは、日・米等の海洋国家にとっては海・空兵力と

これまでの実施結果では、視察のため必要な情報の提供が十分、また秘匿・偽騙が行なわれるなど満足はいくものではない、という西側の所見もみられている。

先の第3回全欧安保再検討会議では、欧州

その活動が大きなウエイトを占め、また中国のような大陸国家や韓国のような半島国家もあり、極東ソ連を含めその軍事力の構成は多様であり、このような措置をとり入れる場合の利害も一様ではない。

②、ゴルバチョフ・ソ連政権が公表した通常兵力の50万人削減は、欧州正面では一部具体化しているが、極東正面についてはいぜんとしてあいまいで不明な点が多い。むしろ、極東におけるソ連軍は、引き続き着実に増強(特に質的に改善)されているものと認識されている。

③、朝鮮半島における対立やわが国にとっての北方領土問題等が未解決のままである。

ソ連における「ペレストロイカ」は難航しており、いつ・どういう政策の変化があるか、先行き不透明である。

信頼醸成措置は、文字通り、軍事的にも相互の不信感を軽減することにねらいがあるわけだが、根本的なくい違いを無視して軽々に踏み込むわけにはいかないように思われる。まずはそのための条件が整い、また適切な検討の場を構成する要があろう。

いわゆる「平和攻勢」なるものは、相手側に対しパスに乗り遅れるな式の一般世論をかきたてておいて、政府がならんらかの対応をせざるをえないように追い込むという行動様式を特色としていることを忘れてはなるまい。(了)

随想

失われた商業道徳を嘆く（一）

—道徳復興に国民総進軍—

大塚道廣

（大洲陶器株式会社
航少候23期）

応じた環境と刺激とにより育まれ、核分裂的に繁殖し、一層根を張り強固な温床となつて、善良な多くの人々に悲惨な被害を与えている。

この悪玉と、正義を守る善玉とは世の至る所に共存するが、俗化された現代ではとくに悪玉が無数にはびこり、始末に負えない狂乱ともいえる憂うべき時代の到来であつて、誠に悲しみに堪えない。

このような欲望の世界と清浄の世界との共存の道には、つねにあくことなく、終止符を打つことなき、不滅の戦いが、日々くり広げられているのが現状である。

しかも、世の榮枯盛衰にかかわりなく、かつ強者弱者に区別なく、国民の八苦悲嘆をも省みず、悪らつ無尽にして、強欲な悪徳商法は、今や盛りとしてはびこりつつあり、日本の将来を憂慮する国民の一人として誠に慚愧に堪えない。



悪の温床

悪の温床は、人類の歴史上いつの世も、またその時と所とも拘らず、全国的にまん延発生し続け、しかもその適

現代人類は、私欲に始まるすべての邪欲や、御身大切への執念がまん延し、邪念理念が常識として罷り通るが如き錯覚心理へと変向し、「滅公奉私」の時代となり、人間としての本来の軌道より脱線して蓄生道に陥つておるとしか思えない。

悪徳商法は、このような悪の温床より発し、あらゆる分野の業界にくまなく根をおろし、その内容、質ともに多岐多様にわたり、膨大なる温床として至るところに存在し、猛威をふるい、拡大一途にある。

この不正を生む悪の温床たる土壌に鋭いメスを入れ、これを改革することこそ、われわれ清浄の国に生を受けた日本人として、また善良な国民として果すべき義務であり、緊急かつ重要な課題ではないだろうか。

悪の芽生え幻の如く

日本は戦後の豊かな経済成長に伴い、ともに悪の温床もその恵みをうけ、細菌の如くに繁殖の拍車がかかつてきた。

その要因はマスコミ、ジャーナリストを始め、政財界までが、悪徳を売物にし正常化せんとする我欲邪念が、激動の時代とともに幻の如くに広がり、精神の国日本の将来にも、また次の世代への深遠な配慮をもなくし、餓鬼道に落ち、金輪際から宇頂天にまで至る悪徳商法天国となつて、

道義なき暗黒の世界ともいうべき日本に変貌してきたのである。道義の頹廃まことに憂うべきものがある。

今その道程を顧みれば、昭和五十五年頃が一大変貌期であり、悪の芽生えも急激に増大し、常道化してきたものと思える。

狂気の沙汰悪の勧め

さらに悪書ブーム時代として書名に悪のついた本の出版ブームに沸いている。「悪の勧め」を堂々と説いた本、いづれも発売以来大変な人気で増刷に次ぐ増刷とある。

火つけ役になったのが「悪の論理」国際社会の冷酷さをわきまえ、ふてぶてしい悪人の構えでことに当るべし、と。勧めたのが人気を呼んで、当時だけで発行部数は三十万部。読編の「新悪の論理」も三十万部と異例の大ヒット。

さらに「悪の経済学」「現代を生き抜く悪の理論」この一冊を読めば悪に精通出来るという。またものすごいものもある。「乱世こそ悪人跳梁のチャンス」社長悪時代を生きたため必読の指針」とうたった「社会悪の論理」もある。また「悪の社会学」も異色。すべて悪の勧めである。

書名に悪はついていなくとも悪のすすめを説く本も多い。「悪をもって悪を制する」「人間関係は利害関係」「人

間一皮むけば利欲と感情走る」「非常に徹せよ」……など。

悪の魅力とは何か。「冷酷、非情、ち密な計画と決断力、それに実行力」が、悪のイメージという。これでは善良な読者は自分にはない悪人の強烈な個性にあこがれてくるのも当然である。

この「悪の勧め」ブームがなぜ今悪なのか、社会評論家の言によれば、「これまできれいな過ぎた。ところがソ連のアフガニスタン浸攻、相次ぐ政界の汚職など、暗い面が一気に表面化した。平和善だけでは世の中生きられないと気づいたのでは」。

また他では、「周りを見渡せば汚職だらけ、企業内でも、ずる賢い社員ほど出世するようだし、混乱の時代では悪は少々のことでは驚かず、悪人に学んで、ずぶとく生きろということではないですか」とも言っている。

また中には「今や知能犯は激増中、あなたも悪への共感が胸の底にうづく時がありませんか」と。

いづれも悪の根絶という清浄感のかけら一つもない、その時代に適合した欲本能を助成するが如き言語の氾濫である。

これらはすべて豊かさに溺れ、その尊さや恩恵を無視する現代の邪念心理を巧妙に利用した悪徳商法であり、悪への道の導火線であって、決して許すべからざるものである。

る。

このような反動が反動を生み、欲が欲を生むが如き悪の潮流の断絶には、断乎鉄槌を下すべき勇氣が必要であり、倫理の啓蒙、確立の要切なるものがあるを痛感する。

悪徳商法と昔の商人道

悪徳商法は、政界汚職にまで発展し、人類の世界衣、食、住の隅々まで浸透し、その心底までも食い荒す恐ろしい毒牙となって繁殖し続けており、その凄まじさには驚く。

悪徳商法は枚挙にいとまがないが、万人ひとしく悪辣であり、非人道的として取り上げられている主要事件のみに絞る、かつ最近のものについて説明してみたいと思う。

昭和六十年頃は「悪徳商法」の大はやりの年であったと思う。「純金ファミリー証券」といった紙切れと引き替えに二、〇〇〇億円もの大金を集めた鬼気迫る豊田商事事件。一〇億融資をエサにして六〇〇億円を釣り上げた投資ジャーナルグループ。

いづれも若者で、金欲に狂った亡者が大将となり、集めた金は法外な人件費や、宣伝費や、系列産業への投資などに消費され、約三万といわれるお年寄りや、主婦やサラリーマンが、平均何百万という被害を受けた。

この二人の元凶は、片方は悪魔のような形相で殺害さ

れ、片方は逃げ廻ったあげく、自首して出たが、どちらも「商売に道徳は不必要」「株が一番の遊び相手」といった調子で、自己の不徳義きわまるマネーゲームに、少しの罪悪感も持っていなかったという。まことに悪徳商法の最先端をつつ走る「現代経済社会の鬼っ子」である。

最も経験済みのお年寄りが、親切まがい巧みな手口で勧誘員にコロリと騙されて、虎の子の貯金をマンマと吸い取られてしまう。まことに気の毒である。

しかしそのお年寄りにも「あわよくば一儲け」という欲心が働いたからこそ招いた災いといえる。「内に友あればぞ誘う人ごころ」と二宮尊徳が詠んだ通りである。

「文化国家」を標榜してきた日本で悪徳商法が大はやりとすることは、われわれに「文化」とは何かを改めて考えさせられる。

文化とは、学問や、知能だけの営みではない。人間であることより発した、正しく道に徹して生きることのすべてが真の文化である。

私欲邪念をはなれる

日本の江戸時代では、人間の道として商人道が強く自覚され、鼓吹された。西鶴もまともな町人道を説き、石門心学は、商人石田梅吉を開祖として永く広く庶民を教化した。

特に二宮尊徳は、桜町復興当時、不二講の済度に列していたが、この不二講では小谷三志の高弟で下総（茨城県）水海道の豪商釜屋忠八こと頂行三達が、その著書「勧善録」（文政五年）で次のように言っている。

「商家の信心は私欲、邪欲の念をはなれ、かりそめにも偽心なく、通行第一の天命をわきまえ、売り先、買い先の手都合よきよう、明日とすることも今日間に合い候ように取り計らい、売買の品々、性合いよきものと吟味いたし、売り先、買い先に真実なるが信心なり。当時その場その場で利を得ることを良しと思ひ、引き物、紛れ物（不純物を混合したもの）など買い集め、安売りと言ひ触らし、先へ持ち帰りてみすみす困るようなものを売りつけ、跡果に構わず。一通りは利のやうなれども、天の心にたがう業ゆえ、かようの商人長く繁昌することなし。……利潤、口銭は多くとも得るはずの売買なり。しからば利を得ること謀らず、通行第一に人の用事を調うるところを心として、後一人ずつも多く用事を調立をなすべしと、欲のために売買を励まず、信心のために励むべし。家繁昌の基なり。」

以上は当時の商人道を適切に解明した教書であり、現代の如きあまりにも墮落汚染された悪徳商法を痛切に批判
※以下P・61下段に続く。

戦いの九原則（その7）

武岡 淳彦

（兵法経営塾長
連盟顧問）

見込みをたてることは、目的、目標の決定につながる重要なことだが、そのためには調べることが必要である。調査のポイントが兆候の発見にあることは前に述べたが、日本人は調査についてのセンスが不足しがちであるので、さらにこの点を敷衍して述べておきたい。『孫子』はこれにつき「彼を知り己を知れば百戦して危うからず」と強調していることは周知のことだが、相手を知ることが、口で言うほど容易ではない。よく言われる「勘ぐり」では相手を知ることができない。「読心」が必要なのである。「勘ぐり」とは自分の立場で、どちらかといえば自分の都合によいように、相手の心を見通すことだが、読心は人間はこのような環境におかれればどのような心境になるのかと客観的におしはかるのである。よい例がある。

ミッドウェー海戦だ。海戦の場合は陸戦に比して敵と遠く離隔していて、遭遇戦にぶつかりあうことが多いので敵情判断がむづかしい。瀬戸内海の柱島基地を出航する

とき、連合艦隊司令長官山本五十六大將は「敵はでてくるだろうか」と参謀にいったという。でてくるとはハワイからミッドウェー海域に出撃するかの意だ。敵とはハワイにいる空母部隊だ。この山本大將の疑念は六千キロ余離れている敵艦隊の動向を予想するものとしては常識的であり、しごく当然のことと思う。特に緒戦以来の目を見はるばかりの戦いぶりを思えば、敵が慎重になって出てこないかもしれないと危ぶむのもやむを得ないことだ。だが結果は死にも狂いで出撃してきたのである。山本大將は駐米海軍武官を経験して米人氣質もよく知っていたので、ヤンキー魂についても理解していたはずだ。それならば何故出てこないかもしれないという疑念とともに、死にも狂いで出撃してくるといふ可能行動を考えなかったかといいたい。ここがキーポイントである。私は山本元帥が好きで、中国大陸で中隊長として湘柱作戦に参加したときも、朝日新聞社刊の『元帥山本五十六伝』を持ち歩いていたくらい

だから彼をけなすつもりは毛頭もない。逆に彼ほどの人物でも勘ぐりはしても読心を忘れることがあることを、企業経営者やビジネスマンに指摘して、読心につとめることの重要性を強調したいのである。

ルーズベルト大統領は、パールハーバーを奇襲されたあと全国民に「パールハーバーを忘れるな」と激を飛ばした。このことはアメリカ太平洋艦隊にとっては、「お前らがボヤボヤしているからこんな不様なことになるのだ」という反語にもなる。これは太平洋艦隊にとっては恥辱だ。

「次の機会にこの汚名を挽回しなければ」という決意を抱くのが人情だ。事実ミッドウェー海戦のとき、わが空母に突入してきた雷撃機は、低空で待機していた直掩戦闘機に、つぎつぎと撃墜されたが、落されても落されても攻撃をやめなかった。まさに特攻であった。この執念が急降下爆撃隊の好運を呼び、奇跡的勝利を招いたのである。

この太平洋艦隊の心情、つまり人間はある環境、条件下におかれたとき、どのような心境になるか、自分が仮にその立場におかれた場合を考えてみれば大体察しがつくはずだ。これが読心である。だがこの読心も、そうだとときめつけることはよくない。相手の事情はそれ以外の条件があるかもしれないからだ。だから見込みの一つとしてあげる、それも公算高い見込みとしてだ。ともあれ、勘ぐりは主観

的なのに対し、読心は客観的である。

ここで必要なことは、相手を読心するためには相手の状況をよく知らなければならないことだ。相手のおかれている環境を知ることだ。昨今は企業の引き抜きが激しくスカウトばかりだが、引き抜きを委嘱されたスカウト会社が、お目当の人物と交渉する場合には、その心情によってくどき方をかえるという。それには事前の調査が欠かせない。

ところで調べるためには相手に対してどのような心掛けでのぞむかをきめる必要がある。警察官や税務署の人たちは、相手が隠すことを前提としてプランをたてる。つまり相手は信用できないという仮定の上になたっていることが多い。当然だ。だがビジネスマンや経営者はそれではいけない。ビジネスの場合二つの考え方があ。第一は儲けてやるうとの心であり、第二の場合はお役にたつとの心である。第一の場合も気持としては儲けさせて預くという謙虚なものだろうが、第二の場合とは大分心構えが違う。儲けるといふ心には自分の利益が先にたっている。だがお役にたつ心には相手の利が先にたつて、自分の利はその陰に隠れている。

自分の心が先にたつか、相手の心が先にたつかは、商いをするうえに雲泥の差がある。自分の心が先にたてば勘ぐりになりやすい。これに対して相手の心が先にたてば読心

となる。読心するには相手のおかれている環境を調べる必要で、自然に調査という事前行動がでてくる。勘ぐりには調査はなくてもすむ。

近江商人の發祥の地、近江八幡商業では戦前、修学実習を韓国でやっていた。近江には彦根から大津にでる中仙道に並行して浜街道があった。浜街道は朝鮮人街道と呼ばれるくらい沿線には朝鮮人が多かった。今でも八幡市にその碑が立っている。そのせいか八幡商業の実習を今の韓国でやった。その方法は二人一組のチームを作り、釜山についたら別れて、各チームごとに狙いをつけた町や村に手づらでゆく。慶州とか大田とか木浦とかさらに小さな村へいくのだ。そこで数日間、この町や村は何をもっていったら売れるか調べてまわるのである。作業用の靴が悪いので地下足袋をもっていけば売れるかもしれないとか、洗濯する女性の手がアカギレが多いから、メンソレを持っていけば売れるかもしれないなどだ。むろん町や村の雑貨店などにおいてあるものも調べる、その調べる心が、何をもっていけばお役にたつかである。経済後進地域なので、儲けるという気持でいったら、こんなところで商売などできるものかと、すぐサジを投げだすのが関の山だ。だがお役にたつという考えなら、人の住んでるところなら、たとえ海の果て、山間の避地でも商いはできる。八幡商業の学生たち

は、自分らの先祖がその気持でシエアを延ばしていったことを胸に包んで調べ、調査の結果行商する商品がきまったら釜山に帰って先輩の世話で商品を仕入れ、それを元の場所にもって行って行商で売って歩いたのである。

このようにお役にたつという気持が働けば、調べるという行為が割にすんなりでてくるのである。さきに調査は兆候を知るのがコツだとのべたが、これは相手の将来の行動を読んだり、業界のこんごの動向を読む場合のことだ。しかしこれから売込みをしようとか、新規に開店して商売をしようとする場合などは、現在の需要、ニーズを知ることが必要だ。そのための調査は、今何が売れているかについてローラー調査をする必要がある。陣地攻撃の際、敵陣地を限なく調査するのと同じだ。それにはその地域をセグメントするのが有効だ。セグメントとは細分化することだ。とてもじゃないと諦めていた敵陣地でも、十等分して一つ一つを分析していくと、意外に死角、盲点、弱点があるのに気付く。攻撃成功の見込みがたつてくるのがそれだ。

サラリーマンがローンで家を買うのと同じだ。二十五年で支払う、つまり支払いをセグメントすることによって支払いの可能性がでてくるのである。調査もセグメントして片っぱしから取組んでいけば、苦勞も分散するし、そこから販売戦略が湧いてくるのである。セグメントは地域ばか

りではない。ある洋服メーカーが、高級子供服業界にのりだすことになった。これからの需要はどんなものか、総需要はどれくらいかなどをデパート、小売店、専門店について調べ始めた。ローラー調査である。やり始めて気付いたのは、その見透しを一番しっかりもっているのが専門店であることだ。そこで調査の対象をセグメントし、専門店に絞った。

以上のように見込みをたてるためには読心が重要だし、読心には調査が必要なのがわかった。そして調査にあたっては「相手のお役にたつ」という気持が大切で、その気持があってはじめて、勘ぐりにならずにすむこともわかった。そこで具体的な調査の方法だが、先のことを予測する場合には判断の予兆となるものを考え、そのあるなしを調べるのが有効だが、現在の状態、攻撃のための戦略の緒を捜すための調査では、セグメントがポイントになることがおわかりいただけたと思う。調査の仕方については、いづれ警戒の原則のさいにさらに詳しくのべたいと思うが、ローラー調査のためのセグメントや、セグメントされた地域の調査は常識で行って差支えない。

※P・57下段末尾より続く。

し、鋭いメスを加えられた貴重な警告書であり、深く反省自戒すべきであると思う。

われわれ商人としては、現代にも通用し、最も戒むべきことは「私欲、邪念からはなれる」ことである。

この「勸善録」はお客様第一主義として、生活への適合性、品質、即納、信用に至る点まで、商人としての要道をくまなく網羅した、聖典ともいべきもので、当時商人道の確立履行に敢然として立向った。商人魂の真髓しんねつが窺うかがわれ、深い感銘をうけた次第である。

尊徳の道歌には「諸人の有無の元を業として、運び尽さん幾代経るとも」。

「売買の二つの恵みなかりせば、何国のはてに咲くやこの花」。とこれに呼応して詠まれているが、商いの道はこうして天職を勤める徳行であることを忘れてはならない。

(つづく)



祖国日本に愛と誇りを持つ子を育てる(その6)

——母こそは 命の泉——

多田三重子

(国際教育研究所研究員)

新年おめでとうございます。本年も良い子を育てる実践を求めて一緒に考えさせていただきたいと存じます。

一、母の座の尊厳

☆ 慈母・賢母像

わが子の人間形成と、母親のかかわりについて、古今東西、多くの名言・俚語が残されています。いくつかを並記してみましたがいずれも味わい深い内容を含んでいます。

●子を抱ける母を見るより感ずべきものなく、多くの子と共にいる母より神々しきものなし
ゲーテ

●小児の将来は母の事業なり
ナポレオン

●幾百年にわたって吾々はなお太陽の熱に依頼し得るが如くに、人道は母の暖かみによりて存続す エレン・ケイ

●母は子に熱を与え父は子に光を与える ジャン・パウル

●一人の良母は百人の教師に値す ヘルバルト

●人が生後三年間に覚えることは、成長後大学にて三年間

に覚える量より大なり

●生まれも大切なれど、育ちは更に大切なり

ジャン・パウル
イギリス 俚諺

まことに、母の偉大・母の重責・母の尊厳が端的に表明され特に乳幼児期の母の愛育の重要さが印象的であります。

十億の人に十億の母はあれど

吾が母にまさる 母あらめやも 源 実朝

私もまた、農家の一主婦であった「わが母」に「まさる母はあらじ」と高唱しあるいは幾度となく内心に繰り返しては源実朝に深く共感し、かつはわが母への感謝と恩愛を強くしたものでした。女子師範学校二年の時、全校一斉に「わが母を思う」の作文が課せられ、千二百余名中、二位に選ばれた事も懐しい思い出となっています。

☆ 孝子像

●夢に来る 母をかえすな郭公ほととぎす

榎本其角

●大孝は終身父母を慕う、孝子の至は親を尊ぶより大なるはなし 孟子

●孝は百行の本、教の由って生ずる所なり 孝 經

●たちねの 親のみ思う みどり子の

心や人の 真なるらむ 税所 敦子

●麻なわに かかる身よりも 子を感じる

親の心を とくよしもがな 渡辺 華山

●身体髮膚 受之父母 不敢毀傷 孝之始也

立身行道 揚名後世 以顯父母 孝之終也 孝 經

●樹欲静而風不止 子欲養不親待矣 漢詩外伝

② 小原国芳編「真人のことば」より引用

孝子の真情を述べ、孝の道を説く。一つ一つ心打たれる人の道の根幹であります。親不孝を重ねたまま、すでに両親に詫びる術もなく風樹の歎ひとしおの私に取りましては殊さら身にしむ先人の遺訓であります。

戦後、わが国の教育、特に昭和五十二年の学習指導要領の改訂以来、教育現場に「孝行」の言葉なく、教科書に親への敬愛、親の尊重の文字も見当たらなくなりました。これが家庭内暴力や非行の増大・凶悪化と無関係と言えるでしょうか。人心の基本を見失った一時期でありました。

本年度改訂の学習指導要領の中学校道徳で、父母・祖母に敬愛の念を深め、家族の一員としての自覚をもって充

実した家庭生活を築くようにする。との一項が明示されたことはまことに妥当なことと思われまふ。この趣意が、平成五年度（小学校は平成四年度）から使用される教科書に具体的にどのようにならわれ、教育現場でどう実践し指導するか、期待されるところであります。

孝行も老人をいたわる心情もやはり、他の人間らしさと同じく家庭生活の中で小さい時から教えられ養われ、反復実践して身につくものです。

二、母親の自己教育

慈母としてひたすらに子をいつくしみ、賢母として子に教える時に厳しく躰て偉人・賢人を育て上げた女性は、古今数多く歴史に伝えられ物語りとして後世に生きています。そして現在もまた、母なるが故に自己教育に励む個人やグループ、町会や母の会の存在は実にたのしいものです。

☆ ㊦ ㊧ ㊨ ㊩ ㊪ ㊫ ㊬ ㊭ ㊮ ㊯

あいつは、同時性が尊ばれます。母と子が・父と子が・家族が顔を合わせればどちらからともなく「おはよう」「おはよう」「おはよう」と交す言葉でさわやかな一日が始まる。通勤の駅への道でお互に「おはようございます」と

声を掛け合う町には非行の子はいないので。

必ずしも子から親に、児童から先生に言わねばならぬこともありますまい。むしろ躰や教育だからこそ、まず母が幼な子に「おはよう」「おはよう」と笑顔で語りかけ、教師が優しく「おはよう」と迎えてこそ、幼な子も児童も、あいさつが楽しく、やがて朝の声を掛け合う家庭・地域社会・学校にあいさつが明るくリズムカルに定着すると思うのです。あいさつとは、単に「おはよう」「今日は」との儀礼的な応答が大切なのではなく、人に笑顔で接する社会人としての態度、相手への思いやり、社会生活上の秩序につながる基盤だと私は信じています。

顔を合わせる隣人同士が素知らぬ顔を冷たく背け合う町に明かるい良い子は育ちません。あいさつ嫌いの母親に、心優しい素直な良い子が……育つでしょうか。

㊦ りがとう (感謝)

私共は日ごろ何と多くの人や物の恩恵を受けて生きていくことでしよう。いや、生かしていただいていることでしよう。ありがたいことです。

過保護に育つ子は、人の好意や恩愛への感謝の心が育ちません。逆に母の愛、家族の温か味を知らずに幼少期を過ごした子は、人の親切や思いやりの心を感謝して受け入れ

ることが出来ないものです。共に人間として正常であるとは言えません。

今朝の食事も、米・野菜・卵・浅草のり……を作る人。遠くから運ぶ組織、そこに働く人・人・最後にうちのお母さんの手を経て食卓に並ぶのです。家族の「いただきます」は単に食前の合図ではなく天地の恵・人々の働きへの心からの感謝であるはずです。こうした意味を教えられた子は自然や社会への畏敬の念や、敬虔な心情・感謝報恩の念からだ中に育ち、ありがとう・いただきますにも心がこもります。

急に降り出した雨に駆けて帰ったら、二年生のわが子が洗濯物をきちんと取り入れてある。「まあ、ありがとう」と心から感謝する母親。小さい善意や思いやりにも家族で「ありがとう」と言い合う家庭!!

温かさや優しさが漂うわが家!! 仕事から疲れて帰る父親の足もいつしか急ぎ足になろうというものです。

㊧ んせつ (奉仕)

親切とは、何らの見返りをも期待しない奉仕の心に発する崇高な行為であります。他人の立場や、相手の心の痛みが分かり、思いやりの心による人間的な働きとも言えます。シルバースーツと書いてあるから席を譲る。けれど、自分のその長い脚むねにつまずきながら目の前に立つ老人がい

でもシルバースーツでなければ譲ろうとしない若者。

命令されたり、指図されなければ親切にも敬老にも心を向けない若者。どのような家庭で、どのような学校で育ったのでしょうか。母も教師もいなかったような若者の存在が憐れであり、国の将来が心配されます。

衣食足りて、礼節を知っても、衣食の過多は人の心を貧しく冷たくすることが多いようです。

気の毒にと同情し、かわいそうと涙する。ありがとうと感謝し、何かして上げようと人に尽くす。こうした温雅な心や態度は、まるで爪二つのように母親の心、行動が子に移るものです。「人のことには関係ない。自分の点数をよくしなさい」と鞭打つ母の子には身障者に手を貸す心も、病気の友達へのいたわりも育ち難いでしょう。母親が修業しましょうとの目標の一つが無償の愛の㊶㊷㊸㊹です。

㊶ みません (反省)

人は誰しも失敗します。失敗を素直に認めて繰り返し返さぬよう努力し、また失敗原因を追求して再出発する。その人には成長があるけれども、失敗を正視せずごま化したり人のせいにしたりする者は自分の成長を放棄し、人からの信頼も失いがちです。わが子が何かに失敗した時、母親がどう反応するか。母親の接し方は子に大きな影響を及ぼしわが子の心の岐路ともなります。

例えば、

わが子が友達と万引をした。と知らされた時、母親達はさまざまな反応を示します。

(A) うちの子に限って……。うちの子は悪くない。友達に言われて止むなく一緒にいた、と終始言い張る母。

(B) 胸もつぶれるばかり驚き絶句し、泣いて詫げる母。

(C) 静かにわが子から状況を聞き、子の非行は親の責任と、他の親とスーパーへの詫げや、弁償について話し合いの中心になる母。

(D) 父親にも一部終始を話し両親と子と揃ってスーパーに行き詫げて処置する母。

(A)の母親に育てられる子は不幸であり、この子の精神の回復は困難と言えましょう。

「あっ、すみません」「ごめんなさい」とすっきりと心から言える。「悪かったわ」と反省し改める母の日常の生き方は、子供がしっかり見ているものです。

母の座の尊厳とは、母が理屈抜き、身と心を捧げて子の生育に尽くす有難くも尊い、しかも母の生き方、育て方が子の生涯の基礎となる実におごそかな立場を指します。

母こそは生涯の師・母こそは命の泉。だからこそ母は、子のためにも生涯自分を磨き高めつつ子の人生の先達として成長し続けたいものです。(平成元年十一月十九日)

現代に見る間接侵略・革命（十九）

狩野 信行

（日本軍事史学会監事）

（三）ポルトガル革命（最終回）

反乱軍と鎮圧側

反乱降下部隊の要請に対して、何と赤い海兵隊は直ちに拒絶するとともに、この行動は「冒険主義」だと非難、憲兵隊・第一軽砲兵連隊・陸軍行政学校等の赤い部隊らも、若干の反応を見せはしたものの、どちらかと言えば、自己部隊の防衛を中心とする立場に立った。

翌二十六日朝、大統領官邸付近で政府軍突撃隊と赤い憲兵隊との間で、機関銃・迫撃砲による激しい攻防戦があったのを除けば、さしたる戦闘らしい戦闘もなく、反乱軍は次々と政府軍に鎮圧されて了った。なお、この鎮圧に著功のあったのは、ネベス大佐指揮する特別攻撃隊を援護した、戦車（騎兵学校から出動）であったと言われている。

降下部隊の兵士達は、十一月二十七日、タンコス降下部隊司令部に降伏したが、これに先立ちクニャール共産党書記長は、次のような声明を発表した。「わが党は、直接

的にも間接的にも、この冒険主義的行動に一切関係してはいない。ただ個々の党員が、反乱部隊に連帯を示したことは、或はあったかも知れない」と。

ゴメス大統領は、リスボンに戒厳令を発し、COPCONを解体し、自ら首都軍管区の指揮権を握っていたが、二十八日夜、軍事情勢が「正常」に復した後、今迄の政府自身のストを中止する旨発表した。ポルトガルは、この極左降下部隊の反乱によって、極左の首領カルバリオ將軍の失脚と、極左の中心的・実体的存在物であったCOPCON解体とが実現されて、その革命路線は大きく右へ軌道修正されて行くこととなった。

クニャール・ソ・エ・C・西欧各共産党等の動き 既述のように、ポルトガル革命は、社会党を中核とする中道諸派、共産党を主軸とする急進派、政党政治を認めようとしらない行動的な極左急進派の三者の「合従連衡」の組み換えによって、目まぐるしく動いてきた。七十五年十一月末頃の「極

左の反乱」の失敗によって、政局は漸くにして中道諸派の勝利に、即ち特に軍隊内の中道派の一大膨張によって、それは略々確実になって来たかのように見えた。これらは、主としてポルトガルの国内諸勢力の角遂によって、招来されてきたものであるとは言え、世界全般の諸情勢から、更に具体的には、米・ソ・EC諸国等の国外諸勢力からの影響が、これらに強く働きかけていたのであった。

最も大きな影響力を持っていたのは、勿論ソヴィエト社会主義共和国連邦であった。が当時の、即ち一九七四年から七五年にかけてのソ連は、自国陣営の力をつけるのに急で、所謂「デタント戦略」を継続して行きたかった。そこでリスボンでの七四年四月の無血クーデター以来、月額二百〇三百万ドルに上る資金援助を、密かにポルトガル共産党に送り続ける一方、リスボン駐在のカリニン大使をして、ゴンサルベス首相らを支援し指導し（西側を刺激し過ぎることのないよう）ていたのは間違いないかった。ポルトガルは、NATO（北大西洋条約機構）の地区司令部・イベルラントを持つばかりか、その地理的・戦略的特性からして、もしも同国の各種施設がソ連側に提供されるようになった場合には、西側に致命的な影響を与えることとなる。ソ連艦隊に大西洋の作戦基地を与えることもなれば、NATOの海上補給路が大きな脅威を受けることとな

るし、ポルトガルの直ぐ南、スペインのロタにある米国の原子力潜水艦基地に王手をかけることもなる。ゴンサルベス左派政権は、NATOに留まり乍らも、ソ連の意に沿うよう、そして西側を刺激しないよう慎重な姿勢を取って行った。ポルトガルは、重大な核防衛問題が検討される半年毎の「核計画グループ」の会議にも出席せず、NATOのその他重要な諸活動から悉く排除されても、一度も不満を漏らしたりはしなかったと言われる。そしてNATOに留まり続けたのである。

米国は、しかし、共産党や極左のグループをも引き込んだポルトガル政府を、そのまま見過ごすことは出来ず、密かにアレコレと手を尽くしたようであるが、はかばかしく事は運ばなかった。例の「国家安全保障会議」や「四十人委員会」で、しばしばポルトガル問題を取り上げ、CIAをも使って色々と画策したが、事はポルトガル自身の問題であるし、米国が左翼潰しを画策している等と、事が露見した場合には、中道諸派がその影響を受けて、とんでもない事態に陥る虞れがあるので、仲々に手を出す訳にはいかなかった。僅かに誰にも分からないようにして、西欧の穏健社会主義者を通じ、或いはカソリック信者達を通じて、僅かの資金援助をするに留まったようであった。なお当時の、大統領フォード氏や、当時の国務長官キッシンジャー

氏は、国際会議その他の場面で、しばしばリスボン政府を NATO から追放すべしと口にし、英国始め NATO 加盟諸国を戸惑わせたのは事実のようであった。特にキッシンジャー氏のポルトガルの共産化への憂慮は、際立っていたと言われる。米国のベトナム戦争敗戦の直前・直後の時期であっただけに、無理のない事だったのかも知れない。

EC 諸国は、米国同様ポルトガルの共産化に痛く心配し、事ある毎にソ連に対して自重するよう要求する他、ポルトガル諸政党に対しても、西欧民主主義陣営から逸脱する事のないよう警告し続けた。特にスエーデン・西独・オーストリー・オランダ・英国が熱心であって、例えば七五年八月上旬に行われたストックホルム西欧首脳会談では、パルメ・スエーデン首相が、ポルトガルにおける議会制民主主義擁護の重要性を訴えれば、クライスキー・オーストリー首相は、第二次大戦前に西欧諸国がオーストリーに支援を寄せるのが遅れた為に、ナチス・ドイツによる侵略と併合を招いた歴史的事実を指摘して、「この悲劇を二度と繰り返すな」と呼びかけたものであった。又この頃、西欧十二ヶ国の社会・社民党指導者がストックホルムで会合し、ポルトガル社会党を支援する委員会を設けて、ソ連の共産党支援に対抗して、ポルトガル共産化阻止運動に乗り出す方針を固めたのも、その一つであった。西欧の社会党

員らは、又金を出し合い、ソ連のそれと略々同等の月額二百〜三百万ドルの資金援助を、主としてポルトガル社会党に対して行つたと言われている。

西欧各国共産党の動きも、又大変に際立っていた。一九七三年九月の、南米チリ左翼政権崩壊後の欧州では、「ユーロコミュニズム」なる新しい共産思想が全盛で、それはイタリヤ次いでスペインで花盛りであった。特にイタリヤでは、ベルリッングル書記長指導の下、キリスト教民主党を含む保守・中道・左派全勢力の大同団結を唱え、百六十万党员を挙げて、自由と議会制民主主義擁護の立場を、声高に叫んでいた。スペイン共産党も、一大飛躍を期して柔軟路線を唱え、暗い過去のイメージを払拭しようと全力を傾注していたところであった。仏国共産党は、その親ソ的体質と硬直性の故に、多少の同情をポルトガル共産党に注ぐかに見えたが、それでも社共合同戦略をとる身とて、ポルトガル共産党の取り扱いは手を焼いた。無血クーデター以後のポルトガル共産党は、既に述べたように、最初の頃は他の中道左派諸組織と手を組んで、軍民連合に参加したものの、労組やマスコミ機関を掌握し、そして強力な国軍運動左派を取り込むや、一挙に議会制民主主義の全面否定に迄突き進み、左派軍人らとともに新たな共産国家を、直ぐにも築き上げんばかりの勢いを示したのであった。西

欧各国共産党は慌てた。彼らは、ポルトガル共産党を「スターリン時代の亡霊」だと罵り、その行動は「欧州における社会主義の機会を危くするもの」だと厳しい批判の声を上げた。ポルトガルにおける、ゴンサルベス共産系首相の失脚と、軍隊内の左派共産勢力の衰退、そして極左の反乱に伴う、左派・極左ともどもの没落は、皮肉なことに却ってこれら西欧各国共産党の苦しい立場を、早々に救うこととなったのであった。

ケ 中道穩健派時代へ

一九七五年春の先きの選挙は、いわゆる制憲議会選挙であったが、丁度一年後の七六年四月二十五日に実施された選挙こそ、重要な正身正明の第一回総選挙であった。結果は次のとおりであって、前回と差程変わらなかった。が前回第三位の共産党は、更に落ちて第四位となった。

社 会 党 (中道左派)	三五・〇一%	一〇六議席
人 民 民 主 党 (中道右派)	二四・〇一%	七一議席
民 主 社 会 中 央 党 (保守)	一五・八七%	四一議席
共 産 党 (左派)	四・五九%	四〇議席
人 民 民 主 連 合 (左派)	一・六九%	一議席

右の第一回総選挙よりも、むしろ重要だと見なさるべきは、二ヶ月後の大統領選挙であった。何となれば、新憲法による大統領は、国の最高権力機関たる軍事評議会の議長

を兼ね、任期は五年、凡ゆる法案への拒否権と、議会解散権、閣僚・政府高官・軍首腦の任命権から非常大権に到る、広範な権限が与えられていたからである。

一九七六年六月二十七日の大統領選挙には、失脚していた例のカルバリョ元COPCON司令官が立候補した。又カルバリョの事実上の後任者となっていたエアネス大佐が、社会党その他有力諸政党に推されて立候補した。得票率の最終的な数字は、エアネスが六二%、カルバリョが一六%、アゼベド元首相が一四%、共産党のナンバー2のパトが七%であった。この大統領選挙の前に、アゼベド首相の立候補に伴い、社会党首のソアレスが首相になっていた。ソアレス内閣は、それから二年余の七八年八月迄、何度かの危機に見舞われ乍らも生き残り、一時は永久政権になるのではないかとさえ噂された。

一九七五年四月二十五日の制憲議会選挙、そして翌年七六年四月二十五日の第一回総選挙以来、一九八七年迄に、実に十六回も政権が変わった。しかし、それは悉く、所謂中道穩健派内での交替であって、色々の問題を抱え乍らも欧州西端のユニークな国、ポルトガルは七五年十一月の極左の反乱と鎮圧成功の時から、自由民主の国として着実な歩みが続けて来ていると言えるようである。

韓国訪問の随想

田た 麿なびき 勉つとむ
(姫路郷友会会長代行)

平成元年度の「韓国研修旅行」は、元統幕議長の竹田五郎氏を団長に、堀江正夫・郷友連盟会長も訪韓団顧問の立場で特別参加して、九月二十五日から三十日までの五泊六日の日程で実施された。

昨年までと異なり、本年度は募集開始直後にたちまち希望者が殺到し、バスが満席になるという盛況ぶりで、本旅行の意義が認められ評価が定着したものと、関係者一同嬉しい悲鳴を挙げている。

参加者からの所見提出も相次いでいるので、今月号から数回に分け連載することとする。

(副理事長・矢部 廣武)

九月二十五日秋晴れの空を一路ソウルへ飛ぶ。昭和六十二年十一月、兵庫県社会福祉協議会主催の「韓国研修洋上セミナー」の船の旅から三年ぶりである。この度は日本郷友連盟主催の訪韓研修旅行。特に韓国空軍の現況、在郷軍

人会との親善が重点となっている。

◆大阪より一時間三十分程でソウルに着く。日本大使館駐在武官の笑顔に迎えられ、現地で訪韓研修団が結成された。

◆市街地や道路のあちこちに、ソウルオリンピック一周年記念の横断幕が見られる。国旗とオリンピック旗が飾られ、「ソウルオリンピックよ、もう一度」の感動を呼び起こしている。先ずは国立墓地に献花、心をこめて殉国の人びとに弔意を捧げる。

◆韓国在郷軍人会に表敬訪問をする。立派な会館をもち、中央高速バス会社等の企業をはじめ、結婚式場に至るまでの各種の福祉援護事業を営んでいる。財政的に国からの援助をいっさい受けていないのには、舌を巻くばかり。会長から親しみに満ちた挨拶をうけ、当方からの返礼プレゼントの贈呈が行われる。

◆ホテルに着くなり、サンケイ新聞ソウル支局長黒田勝

弘氏より「最新の韓国事情について」の講話を受ける。その話を簡単に紹介してみよう。

パートI 秋の味覚松茸の話。生産地は東部海岸に近い三十八度線沿いの山地。この附近にできる最高級品が、今年は豊作にあたっている。現地の農協での入札最高値は1kg(ツボミ十七・八本)当り五万ウォン(日本円一万二千円)〔九月二十三日の相場〕。その日のうちにソウルに出荷され、夕方には日本の市場に出回るとのこと。松茸の生産高(四十億ウォン)はその地方での米の生産高の二・五倍で、地元では嬉しい悲鳴のようである。それにしても何故、日本人はこんなに松茸を好むのだろうか。現地では、放射能予防に効くと信じられているという。空港では、五百9(日本円で一万円)の土産品が機内へどんどん持ちこまれている。

パートII 国民の世論調査で政府への要望の第一位は「民生の治安(生活上の治安)」である。盧泰愚大統領による自由の枠を外す民主化が進むにつれ、泥棒、ひったくり、交通違反、婦女誘拐等が急増し、夜の一人歩きの危険度が増してきている。権威をもって押さえずに、国民の自主性に任かすことが盧泰愚政治のやり方であるが、国民は現時局に不安を感じ、やがて自製の世論が台頭することを待ち望んでいるようだ。しかし一方で、「全教組(先生の

組合)の結成は認めない」「教師は労働者でない」との世論が五十%を占めるなか、教師たちがストライキ権の獲得をめざしてデモをすることが目立っている。

パートIII 反米運動について。四十年前の朝鮮動乱の経験者が年をとり、その苦い経験が語られることが少なくなる一方で、若い人の中には、共産主義に踊らされ、反米運動に加わる者もいる。しかし、マスコミでみられるような過激派はごく少数であり、彼らは国民から指弾されている。北鮮は金日成の満八十歳にあたる一九九二年、朝鮮解放五十周年の九十五年には、対南武力統一に打って出る可能性がなしとしない。このことを予測してか南北対話も暫く続くようだ。

反日感情はあるものの、日本の三十六年間の統治から解放され、アメリカによる安全の保障が得られる中で、日本とのつながりが強く求められていることは否定できない。非常時体制下でありながら経済成長がめざましく、最近の賃金上昇(二十%)は近代化への過程で、内需の拡大による消費費現象や高級志向がみられ、百貨店の売上高は大幅に伸びているようだ。まさに東京オリンピックが終わった後の日本と酷似している。いちばんの驚きは、自動車の数の多さとビルやホテルの建設ラッシュである。経済の発展により韓国が世界に知られるようになり、さらにオリンピ

ツクの成功によって自信が見られる。日本とお互いに協力し合えば、アジアの経済圏はヨーロッパのEC国家に比べて劣らないものになる。その中で日本はリーダーの立場がとれるだろうか。

◆バスの中の矢部副理事長の韓国について、とりわけ朝鮮動乱の彼我の戦鬪の説明は、実に快刀乱麻を断つの名調子で、一同驚歎そのものであった。休戦ラインを境にした北と南の冷酷なまでの隔たりが感じられ、最前線基地の愛妓^{アギ}峰^{ビギ}(ソウルより西北四十八km)を見学して、さらにその厳しさが身に伝わってくる。河幅千二百mの漢江対岸から「アメリカの陰謀により韓国は支配されている」と、一日十八時間、北鮮の宣伝放送は伝えつづける。北鮮側のカン高いマイクの声が耳をつく。その中を、南の巡礼団が訪れ、離ればなれになった北の家族に思いをこめて手を合わせている。「朝鮮戦争の時に北に進攻し、大部分を手中におさめた時点で休戦していたら、南北の統一ができていたのではないか……」。ガイドの痛恨の説明が胸をさす。

◆続いて一九五〇年九月十五日、マッカーサーは仁川上陸作戦を指揮。英雄パイプをくわえたポーズのマッカーサー元帥の銅像が中天高く海を凝視している小高い丘に着く。一日のうちわずか二時間余の満潮を利用し、浅瀬の島づたいに上陸を敢行した。この乗るか反るかの大バクチが

作戦を勝利へ導いたとも思える。

◆清州^{キョウ}の空軍士官学校へと雨の中を走る。丘に囲まれた盆地百万坪の敷地にある空軍の幹部を養成する士官学校の玄関に立つ。中央に「必勝空軍」の額が掲げられ、左に「精神戦力強化」、右に「先進精鋭空軍」と墨痕あざやかな看板がかかげられている。緊張と気迫に圧倒される。韓国空軍創設から四十年、全国から少年たちが十数倍の難関を突破して志願してくる。一年生から四年生まで、生徒は一千名である。生徒たちの目の輝き、キビキビとした動作にすがすがしさを感じる。精神面、特に心の安らぎを与えるために、寺院、教会が仲よく並んで建てられている。柔道、剣道の道場が別々に建ち、そこで練習に励んでいる。文化教養の美術館もあってクラブ活動も盛んである。

「赤いマフラー」(パルガン・マフラー)の軍歌が、私たちの耳にも心地よく響いてくる。軽快なリズム、思わず口ずさむ。この歌の主人公が韓国空軍の創始者の一人であることを資料歴史館で知る。この歌は国民の誰もが知っており、親しまれているとのこと、空軍への期待とあこがれが強いことがよくわかる。

◆空軍基地を訪れる。さらに、航空機特に戦闘機等の整備工場見学も、訪韓の印象深いひとコマであった。

●国情が異なるとはいえ、なんという違いだろう。様々な思いが胸をつく。平和と繁栄の日本。その、今の日本にあつて、自衛隊の存在意義をいかに高めるかが、私たちの緊急課題である。「日本の平和に自衛隊が貢献している」と思っている人が八・八％（七月の総理府世論調査）にすぎないという低い評価をどう理解したらよいのだろうか。かつて市内を制服で歩くと、「税金泥棒」とののしられたという。またお茶の水女子大の学生が、「防大生とは結婚しません」というプラカードを掲げて行進する姿にショックを受けた苦い思い……。

今こそ、「自分の国は自分で守るのだ」という気概の高揚、わけても政府の責任において、国を愛する国是の樹立、さらに自衛隊の防人としての權威の確保を、国民運動として展開することを切に望んでやまない。

// 防人の 快適ライフ 国の基

× × ×

日誌書き換え艦長なら当然

横須賀市 外山三郎（元護衛艦長 72歳）

潜水艦「なだしお」の航泊日誌書き換えが、大きく報ぜられ、国民に強い不快感を巻きおこしていることを私は残念に思う。もちろん、それが事実ならばやむを得ないが、

見当違いと思う根拠を私の護衛艦長経験により指摘する。

（一）艦長は航泊日誌について最高の責任者であり、確認の義務を有する。私の経験からも、特別な行動をとったときは、必ず即日、航泊日誌を確認しており、山下艦長が衝突当夜、確認したのは当然である。

（二）衝突の時刻は視認した者が最も正確に知り得る。その第一人者は艦長であり、山下艦長はその時刻をおさえているはずである。その記憶に照らすとき、部下の航泊日誌（原案）の時刻に疑義を抱き、正確な時刻を求めて訂正させたとすれば、それは当然の措置であり、原案の補正である。もしそれを行わなかったら怠慢の責が生ずる。もちろん原案は残したり、内容を公にする必要はない。

（三）航海日誌記注者の時刻のとらえ方と速力受信簿の時刻のいずれに信頼性があるかを考えると、前者は一段落ついでからの遡及記録でしかあり得ないのに対し、速力受信簿には速力発令時刻が自記されているのだから正確な資料となる。例えば後退いっぱいの発令時刻が明らかとなれば、衝突は必ずそれ以後となるし、さらに艦長自身の視認記憶とを総合して一五時四〇分を衝突時刻としたのである。山下艦長が当然のことを当然に行ったことが、なぜ、あのように伝えられるか私には不思議でならない。

（朝日新聞・声）

歡

日韓親善の夕べ

迎

(社) 日本郷友連盟

1989.9.25



中央・竹田五郎団長から右へ、蘇俊烈・在郷軍人会長、白善雄・元陸軍参謀総長、劉載興・元国防部長官、朴元錫・元空軍参謀総長、李鍾勝・元ボクシング会長、李賢超・高麗大学校教授(女性)。団長から左へ、金貞烈・元国務総理、柳江正夫・郷友連盟会長、李亨根・元陸軍参謀総長、金昌圭・元空軍参謀総長、申鉉鍊、元駐日武官、柳根桓、韓日協力委員会事務総長。



郷土の城(29)

最上の名城山形城

佐々木 信四郎

(城郭学者)

一、山形の地

山形県はその名のように山の多い処で、古くは出羽国とよばれ、羽後の一部と羽前国からなり、奥深く大河最上川が流れ、その流域に沿うように都市も勃り、日本海に注ぐ河口一帯は穀倉地帯の庄内平野が開けている。

山形市は山形盆地の南東に位置し、古くから羽州街道・六十里越街道・笹谷街道の交叉する要衝であった。

足利幕府は出羽国の抑えとして斯波兼頼を派遣し、延文元年(一三五六、南朝では正平十一年)兼頼は山形に入り、翌年この地に築城したと伝えられている。

その後兼頼の子孫は代々山形にあって、最上氏を名のつた。

天正年間に至り、最上義光は近隣を平定し、最上一帯に覇を唱え、秀吉の小田原攻城にも参画して、その領国は安堵された。

二、山形築城

このころ最上義光は大々的に築城の工を起し、本丸を中心に、それを二の丸で囲み、またその外周に三の丸を設け、現在に残る規模の輪郭的(同心円的)な宏大な城を造営した。

本丸は東西一丁一九間(約一四四呎)、南北一丁二三間、二の丸は東西四丁三間(約四三三呎)、南北四丁二一間、三の丸に至っては東西一四丁五〇間(約一六一七呎)、南北一四丁一五間であった。

三、近世の山形城

慶長五年(一六〇〇)の関ヶ原の合戦には、最上義光は東軍徳川方にくみし、その功によって、二四万石といわれた所領から一躍五七万石の太守となった。

このときが最上氏の最盛期であって、義光の孫義俊のとき、世継ぎのことで内紛が生じ、これが幕藩体制の強化を計る徳川幕府の好餌となり、外様大名取潰しの犠牲となっ

て改易されてしまった。

元和八年（一六二二）平より鳥居忠政が、最上氏の遺領のうち二四万石を領して山形城に入封し、大改築を施した。

門は枳形で、石垣をもって厳重に構築されているが、他は土塁であった。

当時は東北における外様大名への抑えとして、重きをなしていた山形城であったが、幕藩体制も固まり、会津若松に強力な親藩を入れるに及び、次第に幕府における山形城の重要性が薄くなり、左遷大名の居城となっていた。

しかも、一般的には江戸中期以降大名統制も落着いて、あまり転封など移動しなくなったのであるが、当城は鳥居忠政から数えて、藩主の交替は十二回に及び、その中には再び山形に封ぜられた大名が二家あり、藩主の数は十家に達している。

その間寛永二〇年（一六四三）より正保元年（一六四四）と、明和元年（一七六四）より同四年の間は藩主がなく、幕領となっており、城の荒廃に拍車をかけている。

ことに明和四年に武蔵川越から六万石で入封した秋元涼朝は、その荒廢ぶりを明和六年に絵図に画かせている。

それによると、城内の破損はひどく、櫓の鱧は片方しか画かれていないものが多く、無傷の建物もほとんど見当ら

ない。

幕領以前の松平氏の時きも、石高はわずか六万石に過ぎず、幕領時代に城は崩れ、しかもその後に入った秋元氏も六万石、弘化二年（一八四五）に入城した水野忠精に至っては五万石となり、最上氏時代の栄光の山形城はみるかげもなく荒れて維新を迎えた。

なお、天守はもともと造営されなかった。

四、現在の山形城

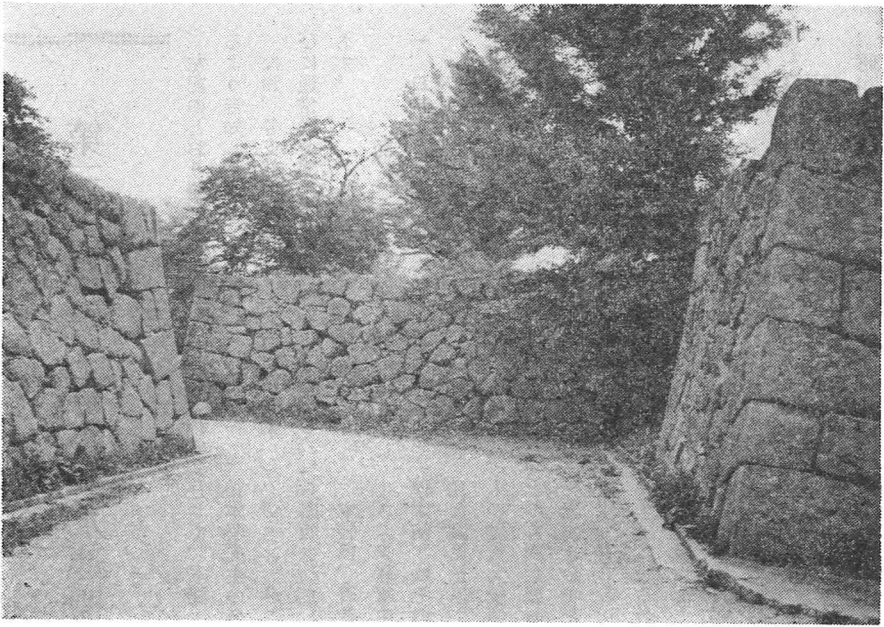
明治二九年には歩兵第三二連隊が置かれ、中心にあった本丸の石垣、土塁、濠は埋立てられてしまつて、現在その根跡は残さない。

戦後は引揚者寮などに転用されていたが、世の安定とともに整備され、二の丸は土塁と水濠に、門の石垣が現存し、また三の丸の一部土塁も残り、最上氏や鳥居家時代の壮大な様子がしのばれる。

現在は二の丸の敷地内に、野球場・テニスコート等の運動施設、博物館・児童文化センター等々文化施設が置かれ、市民の憩いの場所となっている。

古くから紅花が有名であったが、現在はサクランボや食用菊、また「芋煮」はこの名物である。

市の東南には蔵王の連山があり、観光、スキーの基地であり、また奥座敷のように天童温泉も控えている。



二の丸・大手櫛形の石垣

良書推薦

『弱者の戦略・強者の戦略』

兵法経営ゼミ主宰・武岡淳彦著

本書は著者が陸上自衛隊退官後、大橋武夫氏のブレインとして十年間兵法経営研究に心血を注いできた結果をまとめたもので、十一冊目の著書である。著書が特に強調しているのは、戦略がわかるようではないのは、その基礎を強弱におかないからだとし、また弱者の戦法こそが戦略の原点だとする。

弱者の戦法は局地戦を演出して一対一の場を演出するのがコツで、各個撃破や局所優勢は局地戦の別名だという。著者は戦略の数量化、たとえば三一の理論などを重視する反面、世の中の掟や人間心理などにも触れ、モラル・コントロールを強調し、近江商人の経営を例にあげて、企業での活用を強調する。既に初版八〇〇〇部は僅か半月で重版となり、企業界で大きな反響を呼んでいる。

本書は各種企業経営の虎の巻として、又総ての人の処生訓としても活用出来る必読の書として推薦する次第である。最寄りの書店に於てお求め下さい。

(編集部)

第三十五回「日本郷友連盟通常総会」開催告知

左記のとおり開催しますので、参集されるよう告知します。

なお、各支部に対しては「全国理事会並びに通常総会開催」の通達をもって通知します。

記

一、日時 平成二年三月十六日(金)

一〇三〇〜一六三〇

二、場所

九段会館

(東京都千代田区九段南

一六一一五)

三、議題

1、平成元年度事業及び収支

決算中間報告(案)

2、平成二年度事業計画及び

収支予算(案)

3、役員人事(案)

良書推薦

昭和六三年七月号から平成元年七月号に

亘って、本誌に掲載された、郷友連盟理事 柏木明先生の名訳になる「サイレント・ミツション」がこの度、読売新聞社出版局から出版されました。

本書は、著者バーノン・A・ウォールターズ(米陸軍中将、元CIA副長官、前国連大使)はその七ヶ国語を話す語学力と非凡な識見を以て、トルーマン大統領以下五人の歴代大統領の信頼厚く、常にその外国との首脳会談の通訳として活躍した国際外交表裏を余すところなく詳述した貴重な現代外交史であり、柏木先生の名訳と共に長く歴史に残る名著であります。

現在の目まぐるしい国際外交を理解する上にも、郷友誌を既にお読みの方も、もう一度まともにお読みになることをお勧めします。近くの書店でお求め下さい。

(編集部)

日本郷友連盟会歌

岡本淳三 作 野村俊夫 補作
三界 稔 作編曲 若山 彰

(ロンビヤ・オーケストラ)

一、暁つぐる 雲間より

見よ一筋の 光射す

清しくあける 日本の

山河にあがる 意気の歌

おお われ等こそ 新しき

祖国の力 礎ぞ

二南冥の地に 郷友達

たおれし友よ 同胞よ

至誠の精神 受けつぎて

苦難のいばら 踏み越える

おお われ等こそ 選ばれて

希望に映ゆる 明日を呼ぶ

三、使命も重き 旗のもと

団結かたく 揺ぎなし

前途の空を 仰ぎつつ

独立自主の 道をゆく

おお われ等こそ 今ここに

平和を築く 晴れの使徒

進め 誉れの 郷友達

郷友基金

醸金者ご芳名

(通算第7回目) (受付順略)

(石川県支部扱)

十万円 喜多 外吉
十万円 森 婦美子

(富山県支部扱)

永瀬寛平、堀義則以下七十二名

(福島県支部扱)

五十嵐善一郎

(本部扱)

十万円 杉田一次 (元会長)

本部だより

一、千鳥ヶ淵墓苑秋季慰霊祭

十月十八日、千鳥ヶ淵戦没者墓苑は常陸宮、同妃両殿下の台臨の下、三十周年を記念し秋季慰霊祭を催し、総理大臣(代理)以下各界代表及び遺族が多数参集し、盛大に行われた。連盟は堀江会長(代理理事長)が代表として参列した。

一、靖国神社秋季例大祭

十月十八日、靖国神社において恒例の秋季例大祭が催され、各界代表及び遺族が多数参集し厳粛に行われた。連盟は堀江会長(代理副会長)が代表として参列した。

一、防衛講演会

堀江会長は次のように各県支部主催の防衛講演会に出席し、「わが国の安全保障とその問題点」について講演を行い、多数参集した会員ほか参加者に対し深い感銘を与

えた。

1、十月二十九日

鹿兒島県支部主催防衛講演会(鹿兒島市)

2、十一月三日

山梨県支部主催防衛講演会(甲府市)

一、郷友トップセミナー(東京都)

十一月十一日、グランドヒル市ヶ谷において連盟本部主催の第一回郷友トップセミナーを開催し、「国家安全保障に関する提言」を演題として次の講師によるパネル討議を行った。参加者は有末名譽顧問、顧問、理事、参与、相談役、後援会員の外、隊友会、父兄会等の友好団体の役員等、多数にのぼった。内容は後日報告します。

総合同会 会長 堀江正夫

パネラー 名譽顧問 杉田一次

同 参議院議員 永野茂門

同 参議院議員 田村秀昭

同 元統幕議長 竹田五郎

一、常務理事会

十月七日及び二十二日に常務理事会を行い平成二年度の事業方針、地域再建施策、参与会の再編成、財務計画等を審議しました。(味岡記)

TOSHO VISION

総合美を願って

TDL美容法が作り出す外面の美しさ、健康的な生活から生まれる内面の美しさ、そして心の美しさを身につける知的な触れ合い—株式会社東照のハウス&ベレッツアクラブはそうした「総合美」をめざす女性のステージです。ここでは、「美」に関するあらゆる情報が毎日提供され、自由なコミュニケーションが楽しめます。



東照が提案する「総合美」のステージ

東京渋谷・南平台ミュゼドゥベレッツア

**TOSHO
GROUP**

株式会社東照 本社：東京都渋谷区神宮前6-19-20 第15荒井ビル TEL.03-407-1241

株式会社マイクロデバイス 東京都港区芝浦4-16-36 住友芝浦ビル

株式会社総合美容医科学研究所 東京都渋谷区南平台町12-11 新第3荒井ビル

トーション開発株式会社 東京都港区芝浦4-16-36 住友芝浦ビル

エステックアクア株式会社 神奈川県横浜市泉区上飯田町2511

株式会社東照インストルメント 東京都文京区本郷3-29-11 セイル本郷ビル

株式会社インターメディックス・ジャパン 東京都渋谷区南平台町12-11 新第3荒井ビル

ミュゼドゥベレッツア 東京都渋谷区南平台町12-11 新第3荒井ビル

TOSHO
CORPORATION
TOKYO JAPAN

自衛隊今は昔の物語

牧野良祥(前「翼」編集長)

シヨートル市場のガキ大将

——連れてゆかれた家——

おどろいて振り向くと、腕をつかんでいたのは、恰幅のいい中年の男であった。その満人の男は、立騒ぐ周囲の人々を制しながら、落着いた口調で一体どうしたんだといった感じで話しかけてくるのだが、満語なのでおいらにはサッパリ分からない。身なりといい態度といい、どうやらこの界限の有力者らしいこの男に、おいらは口をとんがらして己の正当性を主張した。もちろん、こちらは日本語である。それも、つかまれた手を振りほどこうと、必死の抵抗をしながらである。男は、今にも噛みつかんばかりのおいらの見舞に、呆気にとられたような表情を浮かべたが、やがて苦笑いとともに手を離し、自分についてくるように手真似で示した。

(しゃあない)

おいらは覚悟をきめ、この男についていくことにした。男が連れていったのは、ゴタゴタした小さな家並みの中に、ひとときわ目立つ大きな家で、どうやら男の自宅であるらしかった。庭も広く、家というよりお屋敷と呼ぶにふさわしい立派な構えである。

なにしろ、満州に来て間もなく終戦となり、八路軍



と同居といった生活しかしていないから、中国式のこんな立派な家に入ったこともない。部屋の豪華な調度品に、おいらは目を丸くし、まるで中国の宮殿にいるかのようにさえ感じられたのである。めずらしさにキョロキョロしているおいらに、男は菓子ずくれ、身振りするようにすすめてくれた。腹ペコのおいらが、それにとびつくようにして、ガツガツ食べると、男はニッコリ笑ってみせた。いかめしい顔つきの男が笑うと、とても優しく見えた。おいらも嬉しいのと安心したので、つられてニッコリした。おかしなもので、言葉は知らなくても、けっこう話はできるものである。おいらと男は、身振り手振りの会話を交わし、そして大いに笑い合ったのである。

そのうち、気のゆるんだおいらは、いつのまにかウトウトしてしまったようだ。いくら強がってはみても、そこは子供。朝っぱらからの大乱闘にはじまる緊張の連続から開放され、それに腹の皮が張ったものだから、眼の皮もたるんだらしい。気がつくとき長椅子の上に寝て、フトンをかけてもらっていた。あわてて起き上ると、部屋には誰もいない。それに、この大きな家の中はシーンとして、物音ひとつ聞こえないのである。

(航空自衛隊連合幹部会特別顧問・元一佐)

ハチミツについて

古代エジプトの時代から人類に愛用されて来たハチミツ、その効用、保存法、手軽なハチミツ漬けの方法等を参考迄にお知らせしましょう。

一、ハチミツの効用

ハチミツには糖質のほかカルシウム、リン、カリウム、ナトリウムなど健康を保持するために必要な成分を含んでおり、また、食卓に常時おいておき、パンにつけたり、ヨーグルトに混ぜたり、フルーツにかけてたり……とできるだけ食べる機会をふやすと健康上効果があります。

二、保存法

多量に購入して、長年保存しておいても基本的には変質の心配はありません。

ただし、缶入りの場合は内部をコーティングしてあるとはいっても、缶臭がでてしまうことがありますから、ガラス瓶に移して保存するようにすると安心です。ポリ容

器は、容器そのものにかすかな通気性がありませんので、長期保存には不適です。

ガラス瓶は中をよく洗い、十分乾燥させた上、ハチミツを移し、きつちり栓をして直射日光の当たらないところにおきます。特に冷蔵庫保存の必要はありません。

三、大量にある場合の利用法

フルーツのハチミツ漬け。青梅、カリン、リンゴ、レモン、オレンジなどをよく洗い、皮のまま、大きいものは輪切りにしてハチミツに漬け込むと、フルーツの香りと風味がハチミツに移り、これを水で割るとおいしい飲み物ができあがります。

ニンクも長期間漬けておくと、においが気にならなくなります。

オープントースターでいりごまを

東京都小平市 村中 聡子

(主婦・26歳)

フライパンでごまをいると、パチパチはじけ飛んでしまいますね。私は、ごまをアルミ箔に平らに広げて包み、オープントースターで焼いていりごまを作っています。焼くこと五〜六分、こうばしいごまができあがり。

また、たらこも同じように、アルミ箔に二分の一腹ずつ包んで約十分焼くと、パチパチ飛び散らずにこんがり焼けますよ。

(朝日家庭便利帳より)

生活の知恵

自衛隊だより

巣立つ海の“ひな鳥”たち

4カ月の新隊員教育を終えて

(横須賀教育隊)
第270期練習員)

二海士 小林 稔
(群馬・桐生工高卒)

三月二十三日、大きな夢と希望を抱いてこの横須賀教育隊にやってきた。最初の一週間、そんなには甘くないと知らされた。

「アイロンかけろ、洗濯しろ、だからだす

るな。」時間に追われる毎日だった。一日、たった二十四時間が、どれほど長く感じたことか、あまりにも激しすぎる環境の変化で、肉体的にも精神的にもクタクタだった。

自分たち「春っ子」のほとんどの人が社会人として初めてスタートするわけだから、もう大変なものだ。何といっても自分たちの世代というものは、物に不自由しない恵まれた時代に育ったから、苦労というものは知らない。考えることといたら楽することばかりなのだ。自分の高校時代を振り返ってみても、やっぱり親や環境に甘えすぎている。ただ夢中に、他人につくられた夢を追いかけ、ひたすら夢中の日々を過ごしていた。

この横教にきてどうだろう、何をするにも許可がいる。テレビもゆっくり見れない、外出は六時まで、今までとは雲泥の差だ。やることなすこと、すべて制限されているのだ。どんな苦しい訓練よりもつらいのは、やはりこれである。団体生活ともなるとさらに難しくなる。

四カ月たった今日、生活に余裕ができた

間に追われることもなくなった。すると不思議に気付くことがたくさん増える。まるで見えなかったことがたくさん見えてくる。初めてここに来て本当に良かったと思える。

修業を前にして同期の仲間と別れるのはつらいけど、みんなとのここでの生活を励みとして、しっかり使命を自覚し、立派な自衛官になろうと思う。

二海士 湯田 康徳
(神奈川・拓殖大学卒)

何もかも初めて経験する生活の中で、とまどいや不安もあったが忙しい日々の中でそれも消えた。

伍長をやってきたこと、年下の友人が大勢できてとても新鮮な気持ちになれたことなどすべてが思い出に残る教育期間だった。

特に実弾射撃は印象に残っている。射撃は以前から関心を持っていてぜひやりたいと思っていた。ある作家が「ライフル射撃ほどストイックなスポーツはない」と書いているのを目にしていたが、自分で撃って

みてそれが実感できた。

じつと的をねらっていると黒点がぼやけてくる。そこで焦らずに呼吸を止め引金を絞る。本当に自分に負けたら当たらない、という感じだった。またあの緊張感を味わいたい。初めての射撃で六十点を出したのは自分で満足できる結果だった。

二海士 浅尾 治伸

(福岡・県立水産高校卒)

あつというまに四カ月が過ぎてしまいました。当初、訓練についていけるかどうか心配でしたが、そのような不安はいつの間にか消え去り、毎日が充実したものとなりました。

この生活で楽しかったことは、寝食を共にしてきた班・分隊の皆と力を合わせ優勝することができた持久走です。毎日の別課での駆け足のおかげで、徐々に記録も伸び、大会では自己最高の記録を出すことができました。

逆に苦しかったことは、時間を制約されていたことです。しかし、これは自分にとって今後毎日の生活を送るために必要で

あるし、また、活発に次の動作に移れるようになったという点が、利点ではありませんた。

これから実施部隊に行き、新たな苦しみ、楽しさが待っています。教育隊でつちかった根性でしっかり頑張ります。

二海士 望月 孝治

(埼玉・所沢高校卒)

四カ月の教育を振り返れば、つらく、厳しくそして楽しい思い出が脳裏をよぎる。その中で、特に持久走が思い出深い。

入隊当時は教育隊のことは何も知らなかった。何日か過ぎると別課で走るようになっていった。私の場合、一年間運動らしいものを行っていなかったため、皆に追い付いていくのがやっとだった。今考えると一部の人を除いて同じようなものであったと思う。それから昼に筋力トレーニングが追加され、体力向上に励まざるを得なかった。

なぜこのような思いをしてまで走らなければならぬのか、適当にやればどれだけ楽かと、度々思った。時には筋肉痛の体にむち打ちながら走ったこともあった。

それもこれも持久走競技のためと思っていたが、教育期間が終わる今日、何も競技のためでなく、自分自身の精神、そして団結を育てていたのでと思う。確かに、その時はつらかったが今思い出せば良い思い出のように思える。(元・九月)

(以上朝雲より)





熊本県支部だより

第一、防衛講演会等

当支部に於ては、国家安全保障体制の強化、国民の防衛精神の振興並びに「郷友理念」の拡大等を目標とし、連盟本部の事業に併行し、郷友運動の活性化を図るため平成元年八月以降、二年三月に亘り次のとおり実施又は実施する。

一、防衛講演会

- 1、月日 十一月十七日(金)
 - 2、場所 熊本ホテル・キャッスル
 - 3、テーマ「日本の防衛」
 - 4、講師 連盟会長 堀江 正夫氏
- 二、防衛講座

- 1、月日 一二月一六日(土)
- 2、場所 熊本観光ホテル
- 3、テーマ 近代防衛学
- 4、講師 熊本地連部長 田中和彦一佐

三、防衛研修会

- 1、月日 九月二九日～一〇月一日
 - 2、研修場所
 - (一) 自衛隊川内駐屯地
 - (二) 知覧特攻慰霊観音堂その他
 - (三) 自衛隊都城駐屯地
 - (四) 志布志市沿岸本土決戦陣地その他
- 四、郷友塾
- 1、月日 八月二六日(土)
 - 2、場所 県福祉会館
 - 3、テーマ 二一世紀を前に
 - 4、講師 支部理事長 佐野 幹雄氏

第二、防衛研修会報告記

(1)、第八施設大隊見学研修

九月二十九日(金)十二時、鹿児島県川内市冷水町に所在する陸上自衛隊川内駐屯地に到着。直ちに広報担当者の案内で隊員食堂において隊食を喫食した。

旧軍時代と違って、セルフサービスによって各人の給食を取り整然と実施される食堂に一同驚きをもって体験する。

中食後、少憩の後、隊舎内を見学、完備した営内班を見学した。これまた近代化された設備は眼を見張るばかりであった。

続いて営庭において第八施設大隊渡河器材隊、元田小隊長以下による重架橋作業の展示訓練を見学した。

第一線部隊に随伴して、遭遇する地障や

河川に迅速に架橋する『八一式架柱橋』の展示を詳細に説明、作業を見せて貰い、現代機械化工兵の実体に感歎するばかりであった。

午後二時、次の研修地である知覧特攻記念館に向って駐屯地を辞した。

(2)、知覧特攻記念館・武家屋敷の研修川内を出発して国道三号線を南下、串木野を経て市来町から吹上海岸線に沿って国道二七〇号線に入る。途中郷土兵団第二六師団(阿蘇兵団)の展開していた吹上町を通り、午後三時過ぎ知覧町に到着した。

早速、知覧武家屋敷を見学する。往時薩摩藩は各地に郷土を分屯させ、麓の名称を附し武士集団を居住させていた。中でも知覧は最も良く保存され、庭園に特色があるので、最近は特攻記念館と共に脚光を浴び観光の目玉となっている。

われわれは単なる観光ではなく、国土防衛の見地から麓の成り立ちを研修した。

十六時過ぎ、知覧特攻記念館に向い、殉国の英霊を慰霊、館内に納められた遺影や数々の遺品や遺書に唯々頭を垂れるのみであった。思うに知覧の基地は太刀洗少年飛

行兵学校の分教場として昭和十七年開校し、若鷲の訓練を実施しつつあったが、昭和二十年本土決戦準備、特に沖繩戦の激化に伴って第六航空軍の特攻基地として、海軍の鹿屋基地と共に幾多の勇士が出撃した場所、一同深い感銘と町当局の慰霊顕彰に対する並々ならぬ努力に深甚の敬意を表した次第である。

(3)、志布志湾沿岸の本土決戦陣地跡

志布志湾沿岸は、昭和十九年九月以来、第八十六師団(積兵団・久留米編成)が、終戦まで一年にわたって堅固に陣地を構築したところである。開発が逐次進んで破壊された場所もあるが、なお各所に片影を残している。最初研修団は、志布志湾口南岸高崎地区にあった十五加ベトン製砲座を目ざしたが、残念にも内ノ浦東大宇宙研究所に向う、道路改修によって消滅していた。

次に目ざした志布志町海岸に残る歩兵第百八十七連隊第三大隊の海岸側防陣地は岩山洞窟のため、周辺の埋立開発に拘らず健在であった。

銃眼と砲門は、旧汀線を今もにらんでい

た。これらは一つの史蹟であり、保存策と説明を要する努力が切望される。

(4)、松山師団司令部跡にある神州不滅の碑

第八十六師団の司令部は鹿児島県曾於郡松山町の北側、旧松尾城跡にあった。

師団長芳仲和太郎中将は、終戦直後この地にれい下の軍旗を奉焼し、国土防衛の任を靈峰高千穂の峰近くに拝命し、一年余にわたって防備を固めた兵団の誇を残すため『神州不滅』と大書して二米余の石碑を建立してこの地を後にしたのである。終戦の混乱期よくもこの壮挙ができたものと思われ立派な碑である。

現在、公園として整備化がはかられているが、日本精神の一指標として全国に周知したいところである。

(5)、都城駐屯地防衛館見学

松山町から北進して午前九時都城に到着し、駐屯地防衛資料館を見学した。

駐屯地は旧陸軍歩兵第二十三連隊の跡であり、資料館は旧連隊本部がそのまま充てられている。元々連隊兵営は日露戦後の明治四十年、歩兵第六十四連隊として開

設、大正十四年の軍縮により同連隊が廃止となつたので、熊本から歩兵第二十三連隊が移駐したところである。従つて館内は兩連隊の沿革をはじめ上原元帥等宮崎出身の先哲偉人の遺品、陸海軍の装備・服装等が陳列されている。

係の誘導説明により順次見学し、十一時一部隊を辞し、帰熊の途に就き三日間の研修を終了した。
(副理事長増田民男)

第三、北方領土返還の街頭署名

二月七日の北方領土の日とならんで、十四年前のソ連による北方不法占拠の九月三日、熊本県郷友連に於ては例年の通り、熊本市の目貫通りの下通で、街頭署名を呼びかけた。前夜来の大雨も上がつて、当日は日曜とあつて道も溢れんばかりの人通りで、午後一時から三時まで街頭に立つたのであるが、その間、数方と思われる通行人の関心は一般に少なく、足早に敬遠するかのように入去る人、避けて通る人が多く、北方問題に如何に関心が無いかを歎かせた。

しかし一面、この行為に協力的で感謝激励の言葉をかけて署名する人々があり、そ

の都度勇気づけられた。こうした篤志の方々より、いただいた署名は二百七十九名に及んだ。

矢野会長自ら陣頭指揮で計七名の方は、御多用の中にも進んで参加され、尚個人で他地域でも署名に奔走された女性の方があり、深く感謝するところである。

石川県支部だより

自衛隊記念日に参加

石川県支部では、十月十五日、金沢駐屯地において行なわれた、創立記念行事について協賛するとともに、会員約五十名も招待を受け出席した。

当日は一〇〇〇から同駐屯地の當庭において官、民多数が出席して行なわれ、齊々たる式典終了後は中方音楽隊の演奏、偵察隊のオートバイドリル、ミニ模擬戦等、盛りだくさんの催物もあり晩秋の一日を楽しんだ。

特に同隊ラッパ隊による、旧軍時代と、自衛隊の日課ラッパの吹奏には人気があつた。

敬 弔

連盟本部参与

杉 研 也 殿
(元・10・11)

岡山県支部名誉会長

高 原 孝 殿
(元・10・21)

御 礼 の 辞

今年も例年のとおり、各方面、多くの方々から年賀広告のご協力を賜わり大変有難うございました。誌上に於て厚く御礼を申し上げます。

更めて申す迄もなく、年に一度の誌上に於ける賀詞交換は、お互いの消息を知り、旧交を暖めるため極めて意義深きものと思ひます。今後ともよろしくご配意の程懇願致します。
(編集部)

陸海軍編制人事資料集成

帝国陸海軍八十年の全貌を明らかにする面的三部作!!
歴史研究者、戦史研究家、全国図書館、報道関係者必携!

帝国陸軍編制総覧

井本熊男監修 森松俊夫・外山操編著 上法快男企画編集
官衙・部隊・学校・特務機関等の編制と主要人事を網羅!
四六判革装函入豪華上製本/一五〇〇頁/全一卷/七万円

陸海軍将官人事総覧

上法快男監修 陸軍篇(陸士四十五期迄) 18000円
外山操 海軍篇(海兵五十八期迄) 15000円
全将官及び主要軍人の履歴を年月日迄収録した大資料!

中 発 売 評 好 大

来 出 版 重

参謀辻政信・伝奇

田々宮英太郎著 陸軍で最も著名な軍人でありながら謎と伝説に包まれた怪物的人物の実像に迫る! 28000円

私評ノモンハン

扇 広著 ノモンハン死闘の歴史を元第二十三師団作戦参謀が三十年の研鑽の末一挙評論する話題作 30000円

陸軍大学校

上法快男編 陸軍最高の人的能力開発機関陸大の沿革と全貌を解明・関連資料多数収録 45000円

芙蓉書房出版

文京区弥生2-1-11 03-813-4466
振替東京6351361 出版目録無料送呈

初回は切手300円で見本誌を送ります。

実物交換会誌
旧日本陸軍・海軍 実物
軍装品

■出品500点以上 ■定価500円 ■10日発行■

旧軍隊関係の品物、何でも現金化します

代表者 浦田雅治

交換誌 檻 襷 "S"係

〒710 岡山県倉敷市鶴形2-5-15
郵便振替口座 岡山6-11331

☎0864-22-9383

戦略の原点は、弱者の戦法にあり!

定価1,100円(税込)

弱者の戦略・強者の戦略

武岡淳彦著

兵法に学ぶ——
必勝の経営とは何か
期的戦略論!

従来、個別に語られてきた「勝つための原理・原則」をこの一冊に総合した、画



野島 一良選

岩国 村井 一露

花八つ手噴煙ゆらぎつつ育つ

燦々と硫黄昇華す秋の蝶

私は箱根と雲仙を険にしながら、この

二句を鑑賞しています。「噴煙ゆらぐ」

とか「硫黄昇華す」と火山活動の息吹

を描写、「八つ手の花」「秋の蝶」をは

つきりとその上に浮び出させて、動き

なき俳句とされている。バックの噴煙

と花八つ手。硫黄のかがやきと秋の

蝶。の間は鐘が鳴るのか撞木が鳴るの

か、の関係の如く感じられます。

標札に寓とある門石蔭の花

四方枯れて鳩の湖鏡なす

松山 青野さみえ

竹を切る色なき風の真昼かな

色なき風が何ともいえなく清々しく、

また、気が利いていると思います。こ

の風は決して強い風ではない筈です。

静かな真昼、竹を切る音だけが聞えて
いるのです。

草の露踏めばほるほるこぼれけり

しじみ蝶草すりて飛ぶ秋日和

友の歩に合はせて歩む野茨の実

横須賀 大関 不槌

大漁の祈りは無限翳雲

妻眠る墓おもいをり秋時雨

母の無き家を切盛り冬仕度

偽りも裏切りもなく小鳥来る

岐阜 福井 利子

日をうけし朝市の柿買はれゆく

新米を大釜に炊き産業祭

説明を要しない情景ですが、ずばりと

写生されて線の太い一句とされた。

菊供へ上官しばし動かさる

昭和二十年終戦三日前、台湾で空襲の

ため、十九歳の若さで散華された令弟

の墓参に、当時の上官であった方の訪

れに感激された模様が註記されていま

した。健在であれば六十三歳。いたま

しい思いの年月だったことでしょう。

武蔵野 鶴間 俊子

砂利を蹴るぼつくりの鈴七五三

短日の葉間屋の小引出し

漢方の問屋でしょう。短日がよく似合

っているようです。

乃木坂に骨董市立つ神無月

玉野 三村 白柳

人生の終焉菊花に囲まれて

秋日落ち漆喰白き旧家なり

焼き跡の黒き刈田に入日落つ

和歌山 井本 友敏

秋刀魚焼く路地の奥なる老世帯

あの山を越ゆれば那智やいわし雲

秋天に真白く光る給水塔

金沢 高桑 與三

落葉焚く煙の中の修業僧

道しるべ半ばかくせり朴落葉

出征の日も揺れるたり秋桜

松山 重川 兵介

大賞の菊の要の盆小菊

大賞の菊に衰へ見え初めし

久々の句友の達筆菊だより

高砂 柳 穆水

古き佳き国に生きたる菊日和

落付いた生活の感懐に浸っている菊日

和。

雲烟のとほおや惚ぶむかごめし
ポチの名が似合ふ仔犬よいのこづち

松江 大橋新太郎

秋台風ひょうたん棚をつぶしけり

つぶしけり。と秋台風にやられた瓢箪

棚のみじめなこわされ方を、ずばり写

景された。『こはしけり』では如何に

平凡になるかを考えさせられる。

ジャンパー着て僧が銀杏落葉掃く

霧深し鶏舎をのぞく馳ゐて

神戸 泉 美牙

末枯や断崖せまるしるべ石

おそらく今は必要もない道標が断崖の

よくも落ちないと思われるところに立

っている。あたりの草木は末枯れてい

る。末枯、用もない石の道標、それは

断崖に迫っているのである。鴨越あた

りを思わせられます。

横抱きに帰る案山子と眼が合へり

この案山子には生があるのです。作者

の案山子への愛情があるのです。可愛

いとか、あわれとか言わないで『眼が

合へり』といわれた。

久留米 執行 七実

汽車弁の松茸飯と鳥龍茶
蟻螂の枯色となり溝を這ふ

行動すれば身辺句材あり、殆ど松茸の

ないような汽車弁も、ふと路傍の枯れ

溝の中にも。

福島 伊藤喜代子

栗飯をこぼしこぼして孫が食ぶ

栗飯はぼろぼろとしている。まして幼

いお孫さんはこぼしつっ食べている。

いいじゃない、こぼすままにしておき

なさい。という情が感じられます。

木守柿残照集めて赤きかな

富山 城山 晓舟

育てしは男の子ばかりや障子貼る

臥す母の点滴いかる秋の暮

春日市 林 藤雄

山茶花の散り敷く庭に安らぎを

七五三大きな鈴の草履かな

神奈川 仲手川藤吉

函嶺の空に放射す秋落暉

ゴンドラの視界一面紅葉せる

東京 石井 清勝

木の実落つ音に秘めたる過去未来

雑念に老ひ切れぬ儘秋の暮

抒情過多にならないよう注意された
し。画でいう、デッサンが大切です。

素描。素描。自ら躍動があるでしょう。

日立 内田 定夫

断崖の空に炎えたつ紅葉かな

山峡の陽をうけ通草熟れにけり

瀬戸 中島 陶村

落葉松の散りて樹林の夕しぐれ

樞曳けば盤梯山の真白なる

仙台 若生 葛匍

御番所の厩の礎石萬紅葉

鐘樓の鞘堂銀杏黄葉散る

福島 秋葉 紅風

稲架並ぶ端に豆がら干されけり

家近い田圃、稲刈のあとよく乾いてい

るようです。そしてその端には柿も色

づいていようです。自然な写生は色

色と余情を誘い出してくれます

千葉 岡田 正秋

紅深しひえつき節を聞く秘境

旅の句五句のうち前掲一句を頂きまし

た。自然に素直にすらすらと詠まれて

いるからです。他は再推敲して佳句と

なされたし。とかく旅の句は感激が先

走ったり、一句に多くのものを入れた
りしがちになります。

御野立所址より見下ろす霧の海
懷旧の情はこの見下ろす霧の海のように
ひろがります。

茨城 高須 湖城

お点前の正座の妻の指太し

或いは農もされる夫人か。指太し。に
愛情がこめられています。

東京 原田 苔石

烈士の碑年古りにけりちちろ鳴く

三ヶ根山上七烈士の碑。と註記があり
ました。事蹟を偲んでいる。ちちろが
鳴いた。そこでこの一句となった。

岡山 三田 久代

藤うつぎ咲きつぐ花に秋の風

紅葉濃し如庵しじまの盆手前
横浜 西山 安雄

冬菜刻む薄日の中の妻の指

近 詠 野島 一良

如庵の萩こぼれて昼の閑かなる

戸隠の嶺々くろし十三夜

K氏

地酒酌む壺もたのしく十三夜

〇〇〇〇

投句締切 毎月十五日必着(翌々月号で発
表)。当季雑詠 五句内外。葉書にわか

り易い字体で。

宛先 186東京都国立市東二―十二―十六

野島一良宛



森 武次選

宮城 高橋 覚

もみぢする山の桜を愛でんとて登りし栗駒
霧深くして

風なきに並木の銀杏散り初めて百舌はしき
りに冬を呼びをり

福島 伊藤喜代子

赤赤とライトを照らし登りくる車の列を包
む黄昏

福島 渡辺 ミツ

奥久慈の紅葉流るる清流の深谷に奇し黄金

の魚群イサ

茨城 高須 行雄

柿うれて嬉嬉と囀る椋鳥の声を聞きつつ戦
記進まず

くれなづむ畑通り行く孫達の声ははづみて
秋風の中

千葉 岡田 正秋

〇亡き妻の好みて見たるチャンネルに合は
せて偲ぶ妻の面影

五十年前の昔に父母連れて詣でし寺に喜寿
のお参り

千葉 植弘 親孝

久久の夕焼鮮やか街角のビルにも茜輝きて
在り

〇三日月は暮れ初む空に白く浮き時経て朱
に輝きて行く

〇評・良く見て居る・写真。

入日に映え金と輝く飛行雲夕空を分け中天
に走る

東京 石井 清勝

義家の昔を偲び吹く風の勿来の閑にわれも
佇む

〇みちのくに炭鉱哀史訪ぬれば月煌煌と照
るばかりなり

○半裸にてただひたすらに掘進む女坑夫の像に涙す

胸熱く廃坑あたり巡りけり炭鉢節を口ずさみつつ

こほろぎの声に呼ばれて佇みぬ廃坑に照る月影を背に

神奈川 大関 民雄

来日のレーガン夫妻にここに地震にめげぬ愛の手を振る

悠久に生くる日本の万葉集世界に誇る自信の歌集

神奈川 仲手川 藤吉

出陣に夫婦別れの実平の像に治承の秋を偲びぬ

強弓を弓手に掻い込み怨敵をはたと睨みし猛きかんばせ

○起重機に吊られし軍馬嘶きてはげしき足掻汝も征くなり

岐阜 松田 要二

初なりの巨峰の施肥ぞぬかるまじ菜園の本ひもとかむとす

○評・漢字も、仮名も丁寧を書くこと。

岡山 三田 久代

北海のピート畑は見はるかす彼方に続きて

草一つなし

前石川 高桑 與三

倒れたる儘に伸び咲く秋桜くねりて風に揺られてゐるも

島根 長岡 利勝

○老妻と旅せし記憶のみ残し今年の秋も過ぎゆきにけり

それぞれに金紙銀紙の賞を得し菊展の花に秋日さしをり

少年の日のわが部屋もこはされて車庫となりをりふるさと訪へば

高知 弘瀬清一郎

降り過ぎし朝けの雨に広庭のさくら落葉も濡れ光り居り

高知 森下 剛

蝋蠟の動き鈍りし此の朝け日溜りの辺に移し置きたり

高知 中田 憲秀

高千穂の峰をはるかに仰ぎつつゆく日南の秋の旅はや

高知 古谷 進

ときもなし

秋風に吹かれて揺れて蓑虫の糸の行方

もとなき

高知 別役 重具

いたつきの身に隔てなく木犀の香は潮風にときを知らせる

高知 中平 憲白

迎ふる 月おそく松茸薫る食卓を囲みてわが家秋を

どこからか花は見えねど木犀の薫はこべり心なごみぬ

戦友と歩きし神田本屋街老いて巡るも懐かしきかな

長崎 大坪 善一

目の前を波を砕きて進み行く観艦式の威容頼もし

○程度の点滴による副作用じつと耐へ居る娘の笑みさびし

宮城 若生 活穂

夜もすがら風に晒され柿の葉の舗道群れ敷き色の綾なす

石川 高桑 與三

帰りぬ

道端の車の下にひそみぬし鶯素手にて捕へ鶯の飼育法など小鳥屋に教はり鳥籠餌も買

ひくる

鶯の仕草眺めて和みつつ小一時間を思はず
過す

岡山 三村 白柳

屋上は夜來の激しき雨止みて熱海の空は青
く晴れ居り

◎選後小記

○今月は、二十三名、八十四首のうち四十
三首を採った。

○文字は、漢字も仮名も正確に丁寧^ニに書
き、一読、意味の分るよう^ニにすること。

○歌は、平明に詠み、一読情景が明らかに
浮かぶことが望ましいし、いささかも無
理難解な言葉は避けること。

○原稿は、毎月一回、十五日迄、直接左記
へ。

記

◎214川崎市多摩区西生田三―二―三一三

選者詠 木履の音

森 武 次宛

脚の痛み稍安らぐと見上ぐれば藍の朝顔目
交に在り

腰の痛み稍安らげば窓を開け十五夜の月を

雲間に望む

秋されば何処に行くも匂ひ来る金木屋の薫
親しき

草刈も五年目に入る秋の朝行き交ふ人の袂
撻^タを聞く

修復の成りしみ殿に畏めば木履の音の遠く
聞ゆる

朝朝に森の小道を行く我に木の間を通し初
日輝く

朝朝におほやけの道清むるは腰の曲りし八
十余りの人

咲き切りし金木屋は薫^カなくただ静まりて散
るを待ち居り

大阪に一夜明くればひむがしに朝日の出づ
る空の静まり

山並はおぼろに霞み緑なき大大阪に朝日は
登る

郷友歌壇11月号訂正表

63	頁	段	行	誤	△	正	○
	上	5	高	く	燈み [△]	高	く
			澄	み [○]			



大森 風来子選
東京都 石井 清勝

空の事故まずたしかめる日本人

評||飛行機事故を通報すると、必ず日本
人がいたかどうかをたしかめて、日本人は
いない模様と安堵感を伝える。これは国際
化のすむ現代に逆行するのではないか。

弾丸よけのお守りくれた母の墓
船の特訓受けるベトナム語

パチンコにお礼を言いたいリクルート

札幌市 八木 柳雀

パチンコは右に左によくはじき

評||右は保守、左は革新へ弾が出るのも
パチンコ業界が悪どい商法を続けるため。

持ち家の夢捨て切れずUターン

殺人犯医者が裁いて野放しに

高くて今が買いたし土地ブーム

島根県 山根 陟

戦友会傘寿で参加の生き残り

原隊に仰ぐ慰霊の塔を建て

北鮮が土井に贈った文化賞

北寄りの訳がわかったパチンコ玉

久留米市 執行 実

黄金に輝く銀香も散るさだめ

鬼あざみ昔野菊と比較され

自社対決パチンコ疑惑深い溝

判断のレベルが違う天下取り

評||消費税を論議しながら、若し天下を取ったら世の中が変ってくるなと感じたのである。

玉野市 三村 白柳

勝つための見直し論に四苦八苦

難壇に座り野党のいい気分

評||それにしても答弁のおそまつさには恐れ入る。

人質も僧侶と変り大型化

一円で落札先の先を見る

岐阜市 松田 要二

時は今ヤルタ密約崩壊す

皇室へ課税するとは何事ぞ

世襲議員与野党どちらも民主主義

長らえて通えと医者屠蘇をくれ

評||医は人術ということか。

広島市 坂井 愁山

選挙地が票に見えてるお正月

年金は継子扱い後にされ

共産圏共産嫌う国が増え

国後島の噴煙母を呼ぶごとし

見て育つ母の姿は幼児より

パチンコの弾も平和の弾ならず

善光寺御錠にふれて寿命延び

両県に足を開いて一宿す

注||熊本と大分両県にまたがる杖立温泉旅館での作句です。

千葉県 岡田 正秋

つり銭の一円大手に落札す

カーテンもユーラシヤソ連すけすけに

大正っ子電子レンジをチンと呼ぶ

評||音で巧みに時代感を表現している。

岐阜県 松野 啓子

母亡き里されど恋しさ増すばかり

八十路われ幼時の里は夢で見る

古里を何時も心身駆けめぐる

評||一連の作品は、老いて古里を恋う心がせつせつと伺える。

岡山市 三田 久代

温風に浸り日の丸忘れ去り

日の丸を侵略と見る不甲斐なき

妻と手をつないで押んだ虹の橋

句の味儲けにされたみやげ品

ニュース速報字幕を追う間にあつと消え

禁断の壁打ち砕き流れ出る

(選後に) 毎号巻頭を飾る石井清勝さんの

作品の力強さに心打たれます。これだけ真

剣に作句に取り組まれると、作句も生活のリズムと映ります。

投句は、毎月十五日の締切です。多数のご投稿をお待ちしています。

42岡山県邑久郡邑久町山手 選者宛

郷友柳壇と明記

平成元年度婦人部

全国研修会について

連盟理事長 味岡義一

平成元年度事業計画に定められた連盟主要行事の婦人部全国研修会が本部主催、長

要行事の婦人部全国研修会が本部主催、長

要行事の婦人部全国研修会が本部主催、長

要行事の婦人部全国研修会が本部主催、長

要行事の婦人部全国研修会が本部主催、長

要行事の婦人部全国研修会が本部主催、長

要行事の婦人部全国研修会が本部主催、長

要行事の婦人部全国研修会が本部主催、長

要行事の婦人部全国研修会が本部主催、長

要行事の婦人部全国研修会が本部主催、長

要行事の婦人部全国研修会が本部主催、長

要行事の婦人部全国研修会が本部主催、長

要行事の婦人部全国研修会が本部主催、長

要行事の婦人部全国研修会が本部主催、長

要行事の婦人部全国研修会が本部主催、長

要行事の婦人部全国研修会が本部主催、長

要行事の婦人部全国研修会が本部主催、長

要行事の婦人部全国研修会が本部主催、長

崎県支部担当により、十一月十五日及び十六日にわたり佐世保市で立派に行われ大成功を収めました。参加支部は十八支部で合計六十二名が参加しました。

研修会は次の日程に従い行われました。
十一月十五日

十一時 受付開始(ホテル春潮)

十二時 佐世保JR駅前集合

十三時 開会、国民儀礼

堀江会長等の挨拶

十三時三十分～十五時三十分

各支部婦人部活動報告

討議、堀江会長の総括所見

十五時四十分 映画「海のまもり」

十七時 防衛講話

佐世保地方総監

海将 岡部文雄

十八時 懇親会

十一月十六日

八時三十分 ホテル苑

九時～十一時 護衛艦「まきぐも」による体験航海

よる体験航海

十一時三十分 佐世保教育隊見学及び

昼食

十三時 解散(佐世保JR駅)

所見

一、長崎支部は次の方々を中心となり、海上自衛隊佐世保地方総監及び長崎地方連絡部と約一年前から連絡しつつ計画、準備され大成功を収めました。ここに連盟として厚く御礼申し上げます。

浦 速雄 佐世保郷友会会長

中瀬正隆 長崎県支部副会長

大坪 栄 同 理事長

岩本 栄 同 事務局長

安藤康子 同 婦人部長

一、堀江会長は始めてのご参加でしたが各支部婦人部長の熱心な活動報告に耳を傾けられ、婦人会員の活動ぶりに深く感激され、適切な総括所見を述べるとともに激励されました。

一、岡部地方総監の防衛講話は防衛特に海上防衛の重要性と佐世保地方隊の任務と特色を分り易く説明され、婦人会員一同はその認識を深くしました。

一、護衛艦「まきぐも」の体験航海は風景の美しい佐世保湾で行われ、艦長の北村二等海佐以下全艦員の親切なおもてなしに

より有意義な航海を終了し忘れられない思い出と感激で一杯でした。

一、佐世保教育隊では、司令久保一等海佐のご案内により清潔、快適な新隊員隊舎内を見学し、折しも海曹候補生の卒業に当りましたので赤飯の豪華な昼食を頂き、昼食後、壮快な軍艦マーチと共に去り行く若い海曹候補生の方々を心をこめて見送りしました。一同は立派な青年をこの海上自衛隊に送り込むよう一層の募集協力を誓いました。

一、十五日夜の懇親会は、岡部地方総監ほか幹部の方々、陸上自衛隊第三教育団の代表者、隊友会代表の前川国雄様等を迎えて楽しく盛大に行われ、特に地元の長崎県支部婦人会員の方々のすばらしい踊りが披露され全員の拍手を受け懇親会を盛り上げました。 以上

謹賀新年

小林利

(郷友連盟理事)

☎312 勝田市東大島一―二四―二
電話 ○二九二(七四)二三四―

編集後記

◎謹賀新年

新年を迎え、更に心を新たににして、郷友誌の内容改善に一層の努力をする所存、各方面多くの方々の積極的なご指導とご協力を切に懇願申し上げる次第であります。

◎新年早々にも決着が見られるかも知れない与野党の重大対決、わけてもリクルート問題、消費税問題を契機として昨年の参議院選挙に圧勝した社会党を中心とした連合政権構想、衆議院解散総選挙の結果如何によつてはその実現さえ可能性無しとしな

い実状にあります。

若しそうした事態が発生した場合、戦後今日迄、苛烈な国際情勢下に於て辛うじて我が国の安全と平和を守つて来た、日米安保条約と自衛隊の存在はどうなるのか、国の運命を占う重大事として多大の関心と杞憂を感じるころであります。

この問題について元防衛研究所の第一、第三室長を歴任された軍事評論家郷田豊先生に徹底的な解説をして頂きました。「社会党の防衛政策を斬る」がそれでありま

す。

亜細亜大学・日本経済短期大学学長の衛藤濬吉先生の「安全保障を考える」と共に熟読を念願致します。

◎北方領土の返還要求については戦後今日迄機会ある毎に声を大にして強調して来た所であり、最近に至つてゴルバチョフ書記長の「ペレストロイカ」「グラスノスチ」政策の結果か、ソ連の言論機関に於てやや前え向きの発言が見られるところでありますが、まだまだ油断は禁物であります。

強力な主張、施策と共に、日本国民の総てが之に重大な関心を持ち子々孫々に伝えてゆかねばならぬと思います。然るに新中学校社会科教科書のこれに関する記述には極めて不十分のものがあります。

森本真章先生の「北方領土に関する記述について」はこの問題を詳しく分析して居られます。今後北方領土返還要求を強力に施策・主張するための資として頂きたいと思ひます。

◎戦後今日迄の道儀の退廃は今更ら声大きくする必要もない程痛切なものがあります。この儘で推移すれば日本の将来は誠に

憂うべきものと感ずるのは私一人ではないと思ひます。

毎年新年に貴重な玉稿のご協力を賜わる大洲陶器髒社長の大家道廣先生が、この問題を商人道に於けるモラル低下の面から深く掘り下げて啓蒙、警世の玉稿を寄せて頂きました。相共に究明して少しでも道儀の回復を計りたいと切望するものであります。

◎郷友誌購読のお申込みは振替で。

郷友

(第三十六卷第一号)
通巻第四百十九号

発行兼編集人 赤羽根 漱^き
発行所 Ⅱ 社団法人日本郷友連盟

〒一六〇 東京都新宿区若葉一

丁目二十一番地

電話(341)四三三八六

(353)二三四四一・二三四二

毎月一回一日発行

定価・一部二百六十円(送料共)

振替口座・東京四一七一八七七

印刷所 Ⅱ 共同印刷株式会社

〒一一二 東京都文京区小石川四

の十四の十二

電話・案内台(817)二一一一

獅

友



部品から部材へ、そして今、システムへ

40年前
1本の小さな釘が
始まりでした。

一本の小さな釘をつくることからスタートした当社は、以来、
各種の特殊釘、フックボルト、ジョイナーなど、建築用の金物メーカーとして、堅実に歩んで参りました。

建築工法が進歩し、材料の多様化・高グレード化が進む現在、
アルミ化粧材、笠木、システム天井、天井・間仕切下地などのビル用建材をはじめ、
体育館・アリーナ、OAフロア 集合住宅フロアなどシステムフロア、
また、工場・倉庫などのための換気製品、排煙装置、建築用シーリングにいたるまで、
建築分野のなかで、多岐にわたっています。

わたくし達は、これからも独自の技術と独創的なアイデアで、
21世紀の建築資材の研究・開発を進めます。



金属建材のバイオニア

三洋工業

本社：東京都江東区亀戸 6-20-7 ☎03(685)3452

(社)日本郷友連盟推薦

記念軍歴額

先帝の崩御と共に長い昭和が終わり、平成の新しい年を迎えるに至りました。しかしながら、昭和という時代が持っていた意味は不滅であり、歴史の上に永く伝えられていくであります。

同時に皆様方はこの時代に、身命を賭してお国のために戦われました。昭和が不滅であるように、この事実もまた永く後世に記念しておく必要があります。ご本人はもとより、末代子孫に至るまでの名誉となるであります。

かかるとき、研秀出版株式会社より、【記念軍歴額】制作の申し出がありました。内容は、各人の輝かしい軍歴を中心として、戦後の経歴をも併せ、末代まで残せる記念額を作ることにあります。

即ち、

- ① 金属板に彫刻した軍歴表の掲載。
- ② 若き日の各人の写真、所属した部隊や艦隊の思い出の写真を掲載し、自分の軍歴が一目で分かるようにする。
- ③ 勲章・記章・褒賞を所持する者は、掲載できるようにする。
- ④ 大東亜戦争終了後、従軍者に授与される予定であった大東亜戦争従軍記章を掲載する。

ということであります。

当(社)日本郷友連盟としましては、甚だ時宜を得た企画であると判断し、推薦することにしました。

お写真のない方、勲章をいただきながらお手元のない方、その他詳しくお知りになりたい方は、下記までご相談ください。

総販売元

株式会社ケンショウ

〒983 仙台市宮城野区榴ヶ岡一丁目6-37 宝栄ビル10F
電 話：022-256-0575(代) F A X：022-256-0570

制作

**研秀出版株式会社
顕彰事業室**

〒145 東京都大田区上池台1-16-7
電 話：03-727-1141

